



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 第78回

## 優良公民館表彰

### 令和7年度 表彰館事例集



文部科学省総合教育政策局

地域学習推進課



# 令和7年度 第78優良公民館表彰 表彰館一覧

## 最優秀館（1館）

東京都	国立市公民館	…	33
-----	--------	---	----

## 優秀館（5館）

宮城県	登米市登米公民館	…	13	岡山県	西粟倉村あわくら会館※	…	81
長野県	塩尻市中央公民館	…	57	鹿児島県	鹿児島市松元公民館	…	111
島根県	益田市安田公民館	…	75				

## 表彰館一覧（上記6館含む）

1 北海道	今金町民センター※	…	1	34 愛知県	蒲郡市府相公民館	…	67
2 北海道	奈井江町公民館	…	3	35 愛知県	瀬戸市水南公民館	…	69
3 青森県	八戸市立江陽公民館	…	5	36 京都府	吉津地区公民館	…	71
4 青森県	弘前市立中央公民館	…	7	37 鳥取県	鳥取市立小鷲河地区公民館※	…	73
5 岩手県	一関市室根市民センター※	…	9	38 島根県	益田市安田公民館	…	75
6 岩手県	野田村総合センター※	…	11	39 岡山県	津山市広野公民館	…	77
7 宮城県	登米市登米公民館	…	13	40 岡山県	里庄町中央公民館	…	79
8 秋田県	横手市朝倉地区交流センター あさくら館※	…	15	41 岡山県	西粟倉村あわくら会館※	…	81
9 福島県	川俣町中央公民館	…	17	42 広島県	広島市早稲田公民館	…	83
10 茨城県	養蚕コミュニティセンター※	…	19	43 広島県	広島市己斐上公民館	…	85
11 茨城県	古河市中央公民館	…	21	44 広島県	福山市常金丸交流館※	…	87
12 群馬県	高崎市寺尾公民館	…	23	45 山口県	周防大島町大島公民館	…	89
13 群馬県	前橋市上川淵公民館	…	25	46 山口県	美祢市嘉万公民館	…	91
14 埼玉県	戸田市立新曾公民館	…	27	47 山口県	山陽小野田市須恵地域交流センター※	…	93
15 埼玉県	深谷市岡部公民館	…	29	48 徳島県	鳴門市瀬戸公民館	…	95
16 埼玉県	所沢市富岡まちづくりセンター	…	31	49 徳島県	徳島市住吉・城東公民館	…	97
17 東京都	国立市公民館	…	33	50 愛媛県	西条市大保木公民館	…	99
18 神奈川県	平塚市立大野公民館	…	35	51 愛媛県	四国中央市関川公民館	…	101
19 神奈川県	伊勢原市立中央公民館	…	37	52 愛媛県	八幡浜市立神山地区公民館	…	103
20 新潟県	三条市大島公民館	…	39	53 愛媛県	松山市久枝公民館	…	105
21 富山県	黒部市立浦山公民館	…	41	54 長崎県	長崎市外海公民館	…	107
22 富山県	高岡市福田地域交流センター※	…	43	55 大分県	中津市三光コミュニティーセンター	…	109
23 石川県	加賀市立橋立公民館	…	45	56 鹿児島県	鹿児島市松元公民館	…	111
24 石川県	穴水町立穴水公民館	…	47	57 鹿児島県	指宿市立開聞校区公民館	…	113
25 石川県	白山市立蝶屋コミュニティセンター※	…	49	58 鹿児島県	天城町防災センター（生涯学習推進室）※	…	115
26 石川県	金沢市富樫公民館	…	51	59 鹿児島県	鹿屋市高隈地区交流促進センター※	…	117
27 福井県	福井市清水東公民館	…	53	60 沖縄県	那覇市石嶺公民館	…	119
28 山梨県	上野原市大目公民館	…	55				
29 長野県	塩尻市中央公民館	…	57				
30 長野県	豊丘村公民館	…	59				
31 岐阜県	土岐市立肥田公民館	…	61				
32 静岡県	静岡市興津生涯学習交流館※	…	63				
33 静岡県	静岡市南部生涯学習センター※	…	65				

※…公民館と同等の施設

# 動く公民館

## 今金町民センター(北海道)



動く公民館事業の様子



エッセイコンテストの様子

### 公民館の沿革・年表

- ・昭和28年 今金町公民館開館
- ・昭和48年 今金町民センター開設
- ・昭和49年 今金町公民館廃止、町民センターへ機能移管
- ・平成16年 今金町動く公民館事業開始(以降継続)
- ・平成23年「今金っ子育てプロジェクトチーム」開設
- ・平成26年 今金ふるさと塾開講(以降継続)
- ・平成30年「読書と作文のまちプロジェクトチーム」に改称
- ・令和2年「エッセイ(作文)コンテスト」開催

### 左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

- ・町の開拓史について、開拓創始家から学ぶ様子。大型自動車の運転免許を持つ社会教育主事が運転技術員を兼ねているため、大人数で移動しての野外学習が可能。学芸員や図書館司書、学校教育との連携も多岐にわたっている。
- ・子どもたちの学力向上や見守りを核とした教育宣言のもと、児童生徒を含む全町民を対象にエッセイ(作文)コンテストを年に1回開催。写真は読み聞かせサークルによる今金絵本の読み聞かせの様子。この絵本は地域住民が中心となって、本センターを拠点に企画・制作された。

公民館情報		1. 公民館対象人口	4400人	4. 利用可能時間	9:00~21:00
		2. 建物設置年月日	昭和48年8月20日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN(Wi-Fi等)
		3. 開館日数	308日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 今金町くらし安心課 )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 7,493人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 11,142人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,200人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 4,653人 ( 図書室利用者 )				<b>合計 24,488人</b>
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 4人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 2人    職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人 )				<b>合計 5人</b>
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 教育委員会外部評価委員会 )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ( )				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 ( <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター ) <input type="checkbox"/> 自由記述 ( )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ( 北翔大学、札幌国際大学、今金町社会福祉協議会 )				

### 今金町民センター

OPEN 9:00~21:00 H P  
TEL 0137-82-0631 SNS

## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

少子高齢化や人口減少が進み、各団体や自治会等の活動の停滞、公民館事業への参加者の減少、指導者不足といった状況がみられる。町民ニーズを常に把握しながら、今金町総合計画が掲げる「まちづくりは人づくり」のスローガンのもと、当町では長らく社会教育に力を入れ、総合的な学習環境づくりを進めてきた。特に地域の子どもたちがこれからの社会を生きるためには、学ぶ力と人間力を向上させ、地域ぐるみで子どもたちを見守り育てる意識を高める必要があるとの考えを持ち、教育関係団体が一丸となって取組を進めている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### 【動く公民館事業（地域社会を支える生涯学習活動）】

平成16年度から町の教育委員会の社会教育グループが所管する研修バスを活用し、町内外に向く「動く公民館事業」を継続している。学芸員と連携しての町内歴史探訪や近隣町への芸術鑑賞バスツアー、老人クラブの視察など、年間を通じて幅広く町民の生涯学習活動により地域社会を支えている。

### 【「読書と作文のまちいまかね」の取組（家庭教育支援）】

全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、町の教育委員会が主導して地域住民からなる検討委員会を設置し、対応策を模索した結果、読書のインプットと作文のアウトプットの両輪で事業を展開することが有効であるとの結論に達し、平成24年に「読書と作文のまちいまかね」を掲げた。令和2年度からは読書活動だけでなく、全町民にも呼びかけるエッセイコンテストを開催し、小中学校では作文を夏休みの課題として位置づけている。コンテスト入賞作品については、表彰式において作者本人による朗読発表会も行なうなど、表現することの楽しさに気づきかけづくりとなっている。作品集は町民センター図書室や広く町内の公共施設に頒布し、多くの町民が読めるものとなっている。

### 【今金ふるさと塾（地域資源を活用したまちづくり）】

社会教育委員会とくらし安心課が連携し、地域課題の解決や教育資源の活用を目的に、「今金ふるさと塾」を年4回程度開催している。毎回外部講師を招き、地元の歴史や自然について学ぶことで、参加者の意識や資質向上を図っている。



動く公民館事業の様子



エッセイコンテスト表彰式で朗読する作者

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

今金町民センターは今金町市街地の中心部に位置し、ホールや各種音響・視聴覚備品が備わった研修室があるなど利便性が高く、生涯学習関係団体や町民の利用も多い。また、幅広い年齢を対象とした様々な事業が年間を通じて数多く行われるなど、今金町の社会教育の拠点としての中核を担っている。

同施設に図書室が併設されていることから、図書振興関連事業との親和性が高く、司書の企画・運営による幼児対象の絵本に親しむ活動を安定的に実施している。

冷暖房設備を完備しているため、児童生徒の学習スペースとしてもよく利用されている。最近では、温暖化の影響で深刻化する熱中症の対策を強化するため、クーリングシェルター（避暑施設）としての役割ももっている。バリアフリーの一室では、社会福祉協議会による不用品バザーやリサイクルの取組も実施されている。



幼児向け絵本の読み聞かせ事業の様子

## 4. 取組による成果や効果

年間利用者数は町の人口の約5.5倍あり、この施設を拠点として様々な生涯学習活動が展開され、人と人との交流や人材育成につながっている。「動く公民館事業」も毎回多くの参加者があり、住民の多様なニーズに応えているだけでなく、教育行政上の課題認識を共有し、その解決につなげていく機会を提供している。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

今金町社会教育委員会が年度末に事業評価を行い、翌年度の夏期には教育委員会外部評価委員会に事業評価を設け、定期的に検証・改善を行うこととしている。そのほか、町独自に今金町図書振興会議を設置し、今金町図書振興計画に関する進捗状況の点検を行い、各関係施設・機関で取組の検証・改善を行うこととしている。



社会教育委員会の様子

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

社会教育主事が常駐する教育委員会事務局の所在地を現在の役場から町民センターに移して町民のアクセスの改善に努め、専門職を常駐させることで、住民の生涯学習に関する相談機能を充実させるための施設機能を高めたい。また、動く公民館事業の発展形として、より手軽に高齢者などが生涯学習に関する相談や行政手続きをバス内で行うことができる出張サービスを実施し、バスの活用を拡充していきたい。



今金町民センター外観

## “ずどーん”と町民が集う公民館

## 奈井江町公民館(北海道)



奈井江町社会教育センターの外観



公設塾「ななかま」の風景

### 公民館の沿革・年表

- ・昭和54年 奈井江町公民館開設  
公民館講座開講  
寿学級開校
- ・昭和56年 奈井江町図書館・郷土館開設（併設）  
（総称：奈井江町社会教育センターとなる）
- ・令和3年 公設塾ななかま開設（小学生対象）
- ・令和7年 公設塾ななかま拡充（中学生対象）

### 左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

#### ●奈井江町社会教育センターの外観

本施設は、公民館に図書館と郷土資料館が併設された複合施設となっており、サークル活動やイベントの開催、総合文化祭などの各種行事や、日常的な子どもたちの利用が増えており、老若男女を問わず町民が集う活気あふれる場となっている。

#### ●公設塾「ななかま」の風景

令和3年度から、小学生を対象に公民館内に公設塾「ななかま」を開設した。家庭教育支援の充実を図るため、塾講師体制の整備を進め、令和7年度からは新たに中学生も対象に加えた。現在では、年間延べ6,000人以上の子どもたちが公民館を利用している。

公民館情報		1. 公民館対象人口	4,600人	4. 利用可能時間	8:30~21:00
		2. 建物設置年月日	昭和54年11月3日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	290日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	120台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 300人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 8,100人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 4,000人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 6,600人 ( 公設塾「ななかま」 )				<b>合計 19,000人</b>
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 5人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 人    職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 ) <b>合計 6人</b>				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 昭和54年度から平成11年度までは設置、以降は社会教育委員会議と合併 )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ( )				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 郷土館 ) <input type="checkbox"/> 自由記述 ( )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ( 奈井江町認定こども園、奈井江小学校、奈井江中学校、奈井江商業高校、奈井江町文化連盟、奈井江町女性団体連絡協議会、奈井江町子ども会育成連絡協議会 等 )				

### 奈井江町公民館

OPEN 8:30~17:00    H P <https://www.town.naie.hokkaido.jp/shisetsu/bunka/syakaikyoku.center/>  
 TEL 0125-65-5311    SNS

## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

●まちに一つの公民館として親しまれてきた当館は、開設当初は人口約9千人、年間5万人の利用があった。しかし、近年の少子高齢化や過疎化に伴う人口減少により、事業・講座への参加者や施設利用者に占める高齢者の割合が高まり、若い世代の参加が少ない状況が続いていた。

●奈井江町には、「家庭学習の時間が少ない」子どもや、「自主学習の方法を知らない」子どもが多いといった地域の課題があるが、私設塾の開設には至っていない。そこで、子どもたちが文化・スポーツ活動と家庭学習を両立できるよう、当館を活用した家庭学習支援を始めた。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### 【公設塾「ななかま」（家庭教育支援）】

小学生の頃から毎日の学習習慣を身につけさせること、基礎学力の定着、苦手意識の克服を目的に、「自ら学ぶ力を育むサポート」を行うため、令和3年度から常設型の公設塾を当館内に開設し、令和7年度からは対象を中学生にも拡充した。

### 【「子ども会議」（コミュニティ・スクール）】

子どもの権利に関する条例に基づき、町内小・中学校のコミュニティ・スクールの子ども部会として「子ども会議」を設置している。

### 【国指定重要無形文化財「備中神楽」（伝統文化継承活動）】

昭和57年に友好都市となった岡山県成羽町（現・高梁市）の国指定重要無形文化財「備中神楽」を、昭和62年に当時20代だった会員6名が伝承を受け、当館で修練を重ねてきた。現在も町の文化祭や各地の芸能発表会などで披露を続けている。



公設塾「ななかま」で学習する小学生



備中神楽「素戔鳴尊の大蛇退治」

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

### 【公設塾「ななかま」（家庭教育支援）】

個に合わせた指導により、「わかった！」「できた！」という成功体験を積み重ねることで、勉強だけでなく、学ぶこと自体が楽しいと思えるような様々な体験を提供している。

令和7年度からは、対象を中学生にも拡充し、中学校進学に伴う生活習慣の変化や勉強の難易度の上昇により、小学校で培った学習習慣が継続できていないことによる学習への苦手意識の解消を図っている。

児童生徒が集中して学習に取り組めるよう空調設備の増強を行ったり、菜園体験ができるよう敷地内に畑も設置したりしたほか、貸館がない日には調理実習室を開放し、部活動後の公設塾利用者が軽食を取れるようにした。

また、公民館を利用するサークルや団体に学習のサポートを依頼し、世代を超えた交流や生涯学習の楽しさを知ってもらう機会を提供している。



公設塾「ななかま」で学習する中学生

## 4. 取組による成果や効果

### 【各活動による成果・効果（公設塾「ななかま」）】

●コロナ禍による利用団体の減少や人口減少、働き方改革による開館日数の減少にも関わらず、年間延べ6,000人を超える児童生徒が利用しており、一日当たりの利用者数は回復・増加傾向にある。

●子どもたちの利用が増えることによって施設に活気が戻り、地域の資源となる人材の育成に寄与している。

### 【各活動による成果・効果（「子ども会議」）】

●子どもたちが話し合いや意思決定を通じて、地域の将来を担う社会的主体としての力を養う場になっている。

### 【これまでの取組全体による成果・効果】

●複合施設の利点として、子どもたちの郷土愛の醸成に寄与している。

●一連の取組が、住民の生涯学習の必要性を再認識する契機になっている。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●かつて設置されていた「公民館運営審議会」は、現在では廃止されており、その機能は「社会教育委員会」が担っている。

●年に2回の社会教育委員会では、公民館の運営や事業推進に関する重要な役割を果たしており、地域の実情やニーズを踏まえた事業計画の立案、実施状況の検証、そして、その結果を踏まえた事業内容の改善に至るまでの取組が行われている。



地域のニーズに応じて実施した「プログラミング教室」

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

少子高齢化、地域のつながりの希薄化等、様々な問題が山積している社会の中で、一連の取り組みが世代や性別・趣向を問わず、全ての住民が生涯にわたって主体的に学び続けることができるまちになるよう、「“ずどん”と町民が集う公民館」として地域・学校・家庭の中継点としての機能を果たしていきたい。



カードゲームを楽しむ子どもたち

# 災害に強い地域づくりを目指して

## 八戸市立江陽公民館(青森県)

### 公民館の沿革・年表

- ・昭和51年 4月 江陽公民館設置
- ・昭和57年 1月 子ども会と公民館共催「どんと焼き」開催
- ・昭和59年 6月 伝統工芸「裂織教室」開講
- ・平成 6年 3月 三陸はるか沖地震による災害復旧工事
- ・平成19年 9月 家庭教育学級「和太鼓教室」開講
- ・平成26年 1月 耐震診断の結果、倒壊の危険で閉館
- ・平成28年 9月 江陽公民館改築開館
- ・平成29年12月 江陽小学校6年生の公民館学習実施
- ・平成31年 2月 江陽地区春節国際交流会実施

### 左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

- すみれの会（一人暮らし老人の集い）での防災講話～「わの命はわが守る」をテーマに、自分が助かろうとする行動は他の人を助ける行動に繋がることを、東日本大震災の事例をもとに話したり、防災ゲームを通したりしながら高齢者の「逃げる」意識を高めさせるために、防災士が工夫しながら説明している。
- 防災セミナーⅢ（冬場の避難所体験）～災害は寒い時期に起こることが多い。災害で命を落とす人がいるが、その後の生活難から亡くなる人も決して少なくない。いわゆる災害関連死、それから命を守るために3つのキーワードで学ぶ。



防災士による防災講話・防災ゲーム

#### 防災セミナーⅢ

〔3つのキーワード〕

- ・体温を下げない
- ・温かい食べ物を摂る
- ・トイレを我慢しない  
(自主防災会長が、ポンチョを身に着け、簡易トイレの使い方を説明)

公民館情報		1. 公民館対象人口	5064人	4. 利用可能時間	9:00~22:00
		2. 建物設置年月日	昭和51年4月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	348日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	512台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 885人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 15,040人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 285人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 329人 ( 消防訓練、避難所運営訓練、お年寄りの学習会 )			合計	16,539人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人 )			合計	4人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input checked="" type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ( )				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 ( <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター ) <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 自由記述 ( )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ( 江陽自主防災会、江陽小学校、江陽中学校、防災訓練参加協力団体(江陽児童館、桐の葉保育園、テレジア保育園、江陽こども園、クローバースピアこうよう、グループホーム舟見町、智水寮、有料老人ホーム江陽五丁目)、江陽公民館協会の会、自主クラブ )				

### 八戸市立江陽公民館

OPEN 8:30~17:00

H P [https://www.city.hachinohe.aomori.jp/sochi/hojokan/gokai/kyokai/kurashi\\_ketsuaki/hachinohe-shimomachi-hokokan/4277.html](https://www.city.hachinohe.aomori.jp/sochi/hojokan/gokai/kyokai/kurashi_ketsuaki/hachinohe-shimomachi-hokokan/4277.html)

TEL 0178-45-4571

SNS

## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 江陽地区は、三方を海と川に囲まれた海拔3.3～4mの平坦な所である。地区の中心に大型ショッピングセンターやスーパー、バスの発着所があり交通の便もよく近隣町村からも多くの人が集まってくる地区で、生活するには大変便利な環境となっている。
- しかし、ハザードマップにも示されている通り地震津波の災害が発生すると、江陽のほとんどが浸水区域となり、地震津波から命を守るためには避難を最優先しなければならない地区でもある。そこで、2011年3月の東日本大震災をきっかけに自主防災組織の必要性が叫ばれ、災害に強い地域づくりを目指して自主防災会を立ち上げ、公民館施設を拠点に避難訓練や防災活動を継続してきた。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【平成25年江陽地区防災避難訓練（地域防災・減災）～10月3日（木）】

午後1時10分、震度5強の地震発生、同時に津波警報が発令されたという想定で、江陽中学校を避難場所として地域住民、江陽小学校、保育所・認定こども園（3園）、児童館、老人介護施設の参加を得て防災避難訓練を実施した。「わ（自分）の命はわ（我）が守る」をスローガンに800名を超える参加者による訓練だった。避難訓練終了後は、防災活動（給水、消火、救命等）の訓練を行い、参加者が見学して回った。以後、毎年1回地域を挙げた防災避難訓練を実施している。



コロナ禍での防災避難訓練

【令和3年コロナ禍での防災避難訓練（地域防災・減災）～11月7日（日）】

風水害等の自然災害に備え、自分の命を守るために避難すること、感染症感染防止に配慮した避難所設営の訓練を通して地域住民や防災委員の防災意識や防災力を高めることを目的として、連日の激しい雨と強風のため河川が氾濫し警戒レベル3が発令されたという想定で、公民館に避難場所を開設し、避難訓練、避難所設営訓練を実施した。



ラビア屋上への避難訓練

【令和6年ラビア（民間事業施設）屋上への避難訓練（地域防災・減災）】

令和5年11月、八戸ショッピングセンターラビアが八戸市と協定を締結し、津波避難ビルに指定されたことを受けて、令和6年6月に早朝避難訓練を実施した。自宅からラビアまでの避難経路と所要時間を確認すること、ラビアが営業前であり避難者入り口が1カ所という場所を確認すること、階段を上って屋上まで避難することを目的に実施した。

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

・自主防災会は、公民館で開催される「江陽地域づくり会議」の安全安心部会で何度も話し合いを重ねて組織された。年間の防災活動計画には、避難訓練と防災・減災のための防災セミナーを計画している。避難訓練を実施する際には、地域住民に呼び掛けて実施内容を説明したり、防災セミナーⅠ（防災講話）、Ⅱ（普通救命講習会）、Ⅲ（防災に関する体験活動等）を開催したりする場所として公民館が中心となる。また、公民館で開催される町内会総会や高齢者の会合に出向き、防災講話や防災ゲームなどを通して、防災への関心を高めたり意識を向上させる取組を行っており、公民館は情報発信・伝達の場として、また、防災の重要な拠点としての役割を大いに担っている。



体験活動  
(段ボール箱でベッドづくり)

・江陽公民館長は、八戸市内の小学校長を退職後、江陽児童館長、江陽地区青少年生活指導協議会会長を歴任し、現在は江陽自主防災会会長を兼任している。昨年11月開催の第46回全国公民館研究集会、今年2月には全国公民館連合会主催のオンライン研修会へ参加した。

## 4. 取組による成果や効果

【わの命はわが守るための意識変革】

- ・地震津波が発生し津波が到達するまでの時間は30分と予想されているため、防災セミナーや防災訓練を通して到達時間より早めの避難行動をとったり、防災情報「警戒レベル3（高齢者等は避難！）」で避難行動を開始したりする意識が高まってきている。
- ・江陽地区にある4カ所の津波避難ビルのうち、どこに避難するかを決め安否確認ができるよう家族で話し合うきっかけとなっている。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・防災セミナーや公民館講座の活動後には参加者へのアンケートを実施し、地域住民のニーズの把握や取組の検証・改善に努めている。
- ・東日本大震災後14年経過、その間高齢化も加速し避難訓練への参加者も減ってきている。浸水区域より遠く離れる水平避難は、足腰に不安を抱える高齢者にとっては苦痛となっている。そこで、近場の垂直避難ができる民間の高い建物を持つ事業所への協力をさらに進めていきたい。



民間事業所屋上への避難訓

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

【災害に強い地域づくのために公民館講座活用を推進】

防災への関心や意識をさらに向上させるための工夫として、公民館講座の中に防災セミナー（普通救命講習会Ⅰ・AED使用、避難所設営・運営等）を組み入れて実践的な内容の活動を盛り込む。



普通救命講習会(胸骨圧迫・AED)

# 地域の未来へ！ 学校＋公民館

## 弘前市立中央公民館(青森県)



中央公民館の外観(上)・市内公民館配置図(下)

### 公民館の沿革・年表

- ・昭和31年 中央公民館開設
- ・昭和39年 市民会館に移転
- ・昭和48年 高齢者教室(現ベテランズセミナー)を開設
- ・昭和52年 市街地向けの公民館活動として、学区社会教育講座(現学区まなびい講座)を開設
- ・昭和56年 弘前文化センターに移転、プラネタリウム開設
- ・令和3年 弘前文化センター改修、中央公民館岩木館に移転
- ・令和5年 弘前文化センターに移転

### 左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

弘前文化センター内に設置する中央公民館は弘前公園東側の堀端に面し、公共交通機関でのアクセスが容易である。平成の市町村合併を経て、旧市町村毎に中央館を配置し、昭和30年代の合併による町村部に12の地区館を設置して、少年・青年・女性・高齢者の領域別の各種講座、公民館まつり等を行っている。旧市街地の11小学校区では、町会役員や小学校長等で組織する運営委員会を立ち上げ、地域住民の生涯学習活動である「学区まなびい講座」を年間を通して実施している。

<b>公民館情報</b>	1. 公民館対象人口	71,050人	4. 利用可能時間	9:00~22:00
	2. 建物設置年月日	昭和56年9月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN(Wi-Fi等)
	3. 開館日数	347日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	356台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )			
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2,482人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 67,168人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 890人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 177人 ( 公民館開放事業、子どもの祭典実行委員会 )	<b>合計 70,717人</b>		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 14人 <input type="checkbox"/> 兼任 ( 職員のうち社会教育士の数 3人    職員のうち社会教育主事有資格者の数 3人 )	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者	<b>合計 18人</b>	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 社会教育委員会が公民館運営審議会の役割を担う )			
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 文化会館 ) <input type="checkbox"/> 自由記述 ( )			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ( 城東保育園、市中学校文化連盟、弘前大学、弘前医療福祉大学・短期大学部、市町会連合会、桜松会、ボランティアサークル虹の会、群馬県太田市教育委員会、子どもの活動支援会 )			

### 弘前市立中央公民館

OPEN 8:30~17:00

TEL 0172-33-6561

H P <https://www.city.hirosaki.aomori.jp/chuokominkan>

SNS X (QRコード左)、Instagram (QRコード右)



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 市内には弘前大学をはじめとする魅力ある高等教育機関が多くあるものの、大学進学を機に県外へ出るケースも多いため、中学生のうちから地元の高等教育機関の特徴や学べるカリキュラムを知ることが、将来に向けた職業選択と夢をもつきっかけづくりに繋がる。
- 当館は宇宙や科学への興味・関心を高めるために昭和56年からプラネタリウムを導入しているものの、観覧に訪れる小学校は近隣の学校が多く、遠方の学校はプラネタリウムを見に来られないことが推察される中、令和5年度に移動式投影機にリニューアルしたことをきっかけに、新たな学習機会の提供を検討している。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### 【地元大学との連携事業】

弘前市教育委員会は医療に関する人材育成を目的に弘前大学と連携協定を締結しており、市内中学生を対象に医師や医学生との交流や医療現場の視察・体験ができる「中学生×医師交流プログラム」を弘前大学医学研究科と共催で実施している。また、同大学院保健学研究科・保健学科・心理支援科学科と共催で看護師や臨床検査技師などの業務を体験できる「メディカルスタッフについて学ぼう」を実施しているほか、救急救命士や介護福祉士などの職業について体験できる「来て・見て・学ぼう！医療福祉体験」を弘前医療福祉大学・短期大学部と共催で実施しており、いずれの事業も健康・医療に関連した内容であること、年齢的に近い先輩の大学生と対話できることが特徴となっている。



中学生×医師交流プログラム  
血液細胞の観察

### 【小学校にプラネタリウムがやってくる！】

市内小学校を対象にプラネタリウムの出張投影を行っており、小学校の体育館に直径7メートルのエアドームを設置し、中に投影機やスポットクーラーを入れて、学年やクラスごとに投影している。投影内容は季節の星空のほか、小学校高学年の理科の授業の一環としているため、「月」や「星」に関するプログラムが多いことが特徴となっている。



プラネタリウム出張投影

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

### 【地元大学との連携事業】

大学側の負担を軽減するためにオープンキャンパスと併催する事業があることや、実施時期が中学校の夏季休業中に集中しているため、夏休み前に市内全中学校にチラシを配付し、出校日と重なる中学校に対しては参加への配慮を依頼している。

### 【小学校にプラネタリウムがやってくる！】

プラネタリウムの投影が無い平日を出張投影可能日としていることや、前年度中に市内小学校から希望を募っている。



来て・見て・学ぼう！医療福祉体験  
模型を使った歯の型取り体験

## 4. 取組による成果や効果

### 【地元大学との連携事業】

●中学生が地元高等教育機関や健康・医療従事者への理解を深めており、参加者の満足度も高く、「将来の進路決定にとっても参考になった」との感想をいただいたことも進路選択を支援する良い機会を提供できた。

### 【小学校にプラネタリウムがやってくる！】

●遠方の市内小学校に公民館から出張することで、効率的な天文学習の機会を提供できたと同時に学校教育との連携が図られた。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学識者等10名で構成する社会教育委員会を年間2回開催  
取組内容を説明、意見等を踏まえて改善を行っている。
- 市総合計画における評価・改善  
参加人数やアンケート結果を踏まえ、取組の改善ポイント等の洗い出しを行っている。

### 弘前市総合計画 後期基本計画

～みんなで作り みんなをつなぐ あすましいりんに色のまち～

弘前市総合計画（令和5年～8年）

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

人口減少、少子高齢化、人と人との関係性の希薄化等の現代社会の問題が山積している中で、公民館が人づくり・地域づくりの場として、全ての市民が主体的な学びを継続できるよう、各種事業の展開と生涯学習活動の支援に努めたい。また、コロナ禍で培ったSNSやオンラインを活用して、新たな利用者を公民館に呼び込みたい。



当館Xのトップページ

集い語らい「力合わせてみんなで創ろう」豊かな室根！

一関市室根市民センター(岩手県)



①青年事業 高校生地元イベント参画事業



②伝承活動 曲ろくの花づくり教室

公民館の沿革・年表

- 昭和30年4月 合併により室根村が誕生
- 昭和56年6月 村内3公民館が統合し、室根村立室根公民館が現在地へ完成
- 平成17年9月 一関市に合併し一関市立室根公民館となる
- 平成19年 第60回優良公民館表彰を受賞
- 平成24年4月 室根まちづくり協議会が設立される
- 平成27年4月 名称を室根市民センターへ変更
- 平成29年4月 管理運営を指定管理者に移行

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

①青年事業

地域の若者有志が若者目線で地域課題に向き合って取り組む「室根と愉快的仲間たち(通称:室愉会)」で実施した中高生の地元イベント参画を支援する「むろね七夕まつりに参画しよう」では、有志で集った高校生がチームごとに店の企画・運営を行った。

②伝承活動

勸請1300年の歴史ある室根神社特別大祭を盛り上げる大名行列「袈裟陣巡行」継承を目的とした市民対象の教室を開催した。

公民館情報		1. 公民館対象人口	4205人	4. 利用可能時間	8:30~22:00
		2. 建物設置年月日	昭和56年6月	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	359日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	-
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (室根まちづくり協議会) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 426人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 4,791人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 750人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1,177人 ( 団体・個人の学習相談・支援 )				合計 7,144人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 2人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人 )				合計 9人
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 一関市室根市民センター運営委員会 )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ( )				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 ( <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター ) <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( 市民から寄贈されたこいのぼりや五月人形、ひな人形、写真や絵画、ちぎり絵などが施設を華やかにしている )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 自治会連合会、防犯協会、婦人協議会、芸術文化協会、福祉協議会、友好交流推進協議会、商工会議所関連団体、体育協会、JAいわて平泉農業協同組合、民生児童委員協議会、老人クラブ連合会 他 )				

一関市室根市民センター

OPEN 8:30~17:15

H P

<https://murone-machikyo.com>

TEL 0191-64-2347

SNS

LINE / (Facebook、Instagram※当協議会若者団体)



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 人口減少と少子高齢化が進行し、40年前に約7,000人いた町の人口は、現在では約4,200人にまで減少、近年もその傾向が続いている。年間の出生数は5人未満となり、かつて5校あった小学校は1校に、公民館機能を備えた市民センターも1館に集約された。
- こうした社会的背景を踏まえ、将来的に町に住む若者が各地域におけるリーダーとして活躍できるよう、**地域人材の育成**を目的として、各種事業に若者を委員として参画させる取組を進めている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

人口減少、少子高齢化等の地域課題を踏まえ、若者の地域づくりへの参画の促進や、地域コミュニティの形成につながる取組を工夫して行っている。

### <青年教育事業>

#### 【青年ふれあい塾】

自分たちの地域について**自分たちで考え、地域に貢献**できる活動を行う。活動例：つつじまつり支援、米寿記念品プレゼント、料理教室

#### 【室根と愉快的仲間たち（室愉会）】

**若者目線で室根地域の課題解決**のために事業やプロジェクトに取り組む。活動例：桜ライトアップ事業、子どもたちとの食育事業、イルミネーション支援事業、ドライブインシアター

#### 【中高校生地元イベント参画事業】

むろね七夕夏まつりに中学生・高校生が参画し、出店の企画から、準備、当日までの運営を経験することで、**将来の室根地域を担うリーダーの育成**を目指す。



料理教室（青年ふれあい塾）



子どもたちとの食育事業(室愉会)

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

- ・各事業ごとの**若者打合せ会議**の設定と運営調整
- ・高校生の企画会議（3回）の実施
- ・若者と高校との打合せ会の実施
- ・広報誌「市民センターだより『ふれあい』」「室根まちづくり協議会ニュース」、Webページ、SNSの活用による地域内イベントの積極的周知



高校生の企画会議の様子

## 4. 取組による成果や効果

地域に残る若者世代が減少する中で、青年教育事業の取組を通じ、仕事や家庭以外にも**若者世代が集う「居場所」**となる環境が生まれた。地域との関わりが深まり、自らが企画・運営した事業の達成を通じて**若者たちに自信が芽生える様子**も見受けられた。また、事業に関わる青年たちが、**自身が暮らす自治会や地区の行事などにも積極的に参加するようになった。**

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 各地区の自治会振興会の会長や関係団体職員の長により組織された「運営委員会」を年に3回開催
- 各事業ではアンケートを実施しており、特に高校生参画事業は、生徒らへのアンケートを分析し、次年度計画へ反映させている。



高校生の地域イベントへの参画

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

子どもから若者世代、高齢者まで、**どの世代も気軽に足を運べるような公民館施設として機能させていきたい。**そのために、**青少年教育期から青年期・若者世代へと、つながりづくりを大切にしながら継続して地域と関わる機会を社会教育の現場から仕掛けていきたい。**



世代を超えて伝える曲ろくの花づくり

# くらしの中の 高め合いとふれ合いの場

野田村総合センター(岩手県)

## 公民館の沿革・年表

- ・昭和54年 野田村総合センター竣工
- ・平成12年～ 放課後児童クラブ開設
- ・令和3年6月に耐震補強工事が完了



①放課後子ども教室「のだキッズセンター」事業 絵手紙を書こう!!

## 左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- ①放課後子ども教室「のだキッズセンター」では、児童が様々な体験・交流ができるよう工夫している。絵手紙、日本舞踊、茶道、料理など、各種団体や地域住民からの参画を得ることで充実した体験活動を展開することができている。
- ②成人向けのサークル活動の拠点となっており、住民が学習を深めることにより高まった参画意識が、村の生涯学習事業のさらなる充実に結びついている。



②サークル活動の例 「スタンドグラス」作品展示

公民館情報		1. 公民館対象人口	4205人	4. 利用可能時間	8:30~22:00
		2. 建物設置年月日	昭和56年6月	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	359日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	-
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 688人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 9,049人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 851人 ( 防災関連行事、各種会議参加等 )				<b>合計 10,588人</b>
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 12人 <input type="checkbox"/> 非常勤 人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 人   職員のうち社会教育主事有資格者の数 人 )				<b>合計 12人</b>
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 野田村社会教育委員会議 )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ( )				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設   ( <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター ) <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 村の中心部にあり、役場や体育館と隣接している ) <input type="checkbox"/> 自由記述 ( )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 絵画趣味の会、三ツ甚句の会、松籟会 (以上3団体は村芸術文化協会加盟団体) 読み聞かせボランティアあつぷっぷ、食生活改善推進員協議会、放課後児童クラブ )				

### 野田村総合センター

OPEN 8:30~17:30   H P <https://www.vill.noda.iwate.jp/soshiki/kyoikuinikajimukvoku/somuhan/shogaigakushu/355.html>  
 TEL 0194-78-2936   SNS

## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 以前から住民同士の関わりは活発であるが、少子高齢化の影響や地域ボランティア不足のため、子どもたちが放課後を安全・安心に過ごし、**多様な体験・活動ができるような居場所づくり**が課題であった。
- 東日本大震災後の地域コミュニティの変化等を踏まえ、地域住民の拠点となり、**さまざまな交流のできる「憩いの場」の環境づくり**が求められている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### 【放課後子ども教室事業「のだキッズセンター」】

村芸術文化協会加盟団体や読み聞かせボランティア、食生活改善推進員協議会など多様な団体や地域住民に講師を依頼し、児童に様々な体験・交流の機会を提供し、**地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり**につながっている。例、絵手紙、日本舞踊、茶道、読書、料理 等

### 【「いきいきライフ」事業】

住民のニーズや地域課題を踏まえた多様な学習事業を実施している。

地元菓子店を講師に迎えた「親子和菓子作りに挑戦しよう!」、「世界遺産 平泉に行こう!」での歴史学習、「陸前高田復興見学ツアー」等、**住民のニーズや地域課題を踏まえた多様な学習事業**を実施している

### 【各種サークル活動支援】

総合センターを拠点として活動しているステンドグラス・コーラス・健康体操などの成人向けのサークル活動に対し、活動場所の提供だけでなく活動成果の展示・発表の場を提供している。**活動している住民の「生きがい」や楽しい交流の時間**になり、女性団体の方々の参画意識の高まりや地域ボランティア不足の解消にもつながっている。



野田村文化祭で野田音頭を披露する子どもたち



コールわさらびの活動の様子

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

### 【放課後子ども教室事業「のだキッズセンター」】

児童が放課後に学習や体験・交流活動を通して自主性・社会性・創造性を身に付けられるよう、**多様な団体や地域住民に講師・ボランティアを依頼**

### 【「いきいきライフ」事業】

住民のニーズを生かした企画・立案



キッズセンター「りょうりにちやれんじ」

## 4. 取組による成果や効果

「のだキッズセンター」事業を通して、児童を含めた**地域住民の交流が活性化**している。また、ボランティア講師を務める地域住民がその活動にやりがいを感じ、**事業への参画意識が高まっている**。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 各種事業の参加者を対象としたアンケート調査を実施し、その成果や課題を参考に検証・改善を行っている。
- 年に2回実施される村の社会教育委員会議において、事業運営や活動について報告し、寄せられた意見を次年度の改善につなげている。



アンケートに回答する児童

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

放課後の子どもの居場所として、そして住民の生涯学習の拠点として、住民のニーズを把握し、さらに充実した事業を展開していきたい。また、異世代交流を通して**「大人も子供も元気になる」学習機会の提供**により、さらに住民の参画意識を高め、「コミュニティの輪」を広げていきたい。



キッズセンター「夏休みスペシャル」

# One for all All for one

## 登米市登米公民館(宮城県)



地域を盛り上げる青年団活動



ダンスを通じた共生事業

### 公民館の沿革・年表

- ・昭和22年 登米公民館開設
- ・昭和48年 現在地に登米公民館竣工
- ・昭和60年 宮城県教育功績者表彰受賞
- ・昭和61年 第39回優良公民館表彰受賞
- ・平成25年 とよまコミュニティ運営協議会が指定管理受託
- ・平成26年 第1次とよま地域づくり計画策定
- ・令和5年 宮城県より受託し「共生事業」スタート
- ・令和6年 38の町内会が一本化し組織再編スタート
- ・令和6年 青年団羽波芭酒場結成活動開始
- ・令和6年 第3次とよま地域づくり計画策定

### 左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- とよま応援サポーター青年団の例会で小学生から70代までの多様な世代が参加し、竹灯りづくりのワークショップを開催。町の新たな風物詩創出を目指している。
- 共生事業 GUIDANCE STUDIOのダンス講師KICK-IT氏による奏海の杜の子どもたちとのダンス教室開催。障害のある子どもでも踊れるダンスを学び、盆踊り大会で披露。取組みが県主催の「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in みやぎ」で発表された。

公民館情報		1. 公民館対象人口	4212人	4. 利用可能時間	8:30~22:00
		2. 建物設置年月日	昭和48年9月30日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	359日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	2台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (とよまコミュニティ運営協議会) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 730人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 11,970人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,110人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1,500人 ( クーリングシェルター・居場所としての来館等 )				合計 15,310人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 1人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人 )				合計 4人
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( コミュニティビジネス他収入 )				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( 住民アンケート実施、理事会、コミュニティ部会、町内会振興協議会等 )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 秋まつりやカッパハーフマラソン大会など町の伝統行事への協力・支援 )				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( 老朽化しているが、図書館と軽運動もできる大集会室を併設し、社会教育・社会体育の拠点となっている )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 NPO法人奏海の杜、登米町婦人会、登米文化協会、みやぎ北上商工会、NPO法人とよまスポーツクラブ蔵っこ、登米地区体育協会、登米町環境美化奉仕団、スポーツ少年団、他各種団体を協力団体として連携・協働している。				

### 登米市登米公民館

OPEN 9:00~22:00(8:30~17:15) H P <https://miyagi-toyoma.jp/>  
 TEL 0220-52-2316 SNS Facebook, Instagram



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

公民館が公設公営から「公設民営」の指定管理制度となって10年。古い街並みと歴史、文化はあるが若者・担い手がいなしと言われ続けた少子高齢化の町の活性化を目指し、**地域の住民主導によるまちづくり**がスタートした。これまであった38の行政区、3つのコミュニティを一つにまとめ、**シンプル・スリムな組織**を目指し、住民の声やニーズを集めて第3次となる地域づくり計画を策定した。地域にある教育機関やコミュニティスクール、福祉団体とも**連携・協働を進める**ことで、公民館が社会教育・貸館業務にとどまらず、**多様な世代が集い交流できる場**となっている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【とよま応援サポーター青年団羽波芭酒場/ばばばバー】(こども・若者の居場所づくり)

既存の伝統事業に加え時代のニーズをとらえた新規事業を開始し、**多様な若い世代が集結**。「自称」青年たちが「とよま愛」を熱く語り合い、参加者発案の竹あかりづくりワークショップを開催した。今後、**竹の灯りが町の新たな風物詩**として広まることが期待されている。

【共に学び、生きる共生社会実現の共生事業】(障害者の学び支援)

県の指定事業を受託した共生事業では「**共に学び、生きる共生社会**」実現のために「障害があってもなくても、誰もが参加できるダンス教室」を開催した。地域の特定非営利活動法人・奏海の杜と地域に根ざして活動しているダンス教室GUIDANCE STUDIOを**公民館がマッチング**し、盆踊り会場で障害を持つ子どもがダンスを披露した。県主催の共生社会コンファレンスで発表し、参加者から注目を集めた。

【**地域の学校・コミュニティスクールとの協働・連携**】(地域学校協働活動)

小学6年生が対象の「凧づくり交流」では、地域の方を講師に招き、凧紙と竹ひごを使い世界に一つだけの菱凧を作ったり、60年続く伝統の凧あげ大会に参加した。また、ジュニア・リーダーが大会の運営に参加した。

「北上川学習」では、地域団体「かつぱの会」の協力を受け、小学4年生が川下り体験をした。この他にも盆踊り大会で中高生のボランティアが、縁日コーナーを自主運営したり、高校生インターンシップ職場体験では、高校生が料理教室の運営に参加するなど学校や地域の団体との**連携・協働を進めている**。盆踊り大会に参加した中高生ボランティアから「やりがいがあり楽しかった」の声があがるなど参加した方々からも好評を得ている。



羽波芭酒場（竹あかり作り）



ダンスを通じた共生事業

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

●青年団は毎月一回、交流会を開催し、特にテーマを決めず、参加者が**自由に語り合える場を絶やさないように継続**した。何も発言しなくても、仲間とそこにいることが楽しく、**自然体で過ごせる居場所**となるような空気感を大切にしている。

●障害があってもなくても、**それぞれのペースに合わせて参加**できるよう、講師や施設職員と密に連絡を取り、開催日時や内容など参加者の様子を見ながら臨機応変に対応した。

●高齢化と担い手不足が深刻な町で、小中高校生が体育大会、文化祭などに**参加・参画**し、秋まつりや神楽、お囃子などの伝統文化行事にも関わり、運営ボランティアとして活躍している。公民館とコミュニティスクールとの協働、学校運営協議会との連携が**地域の活性化に良い影響を与えている**。



盆踊り大会中高生ボランティア

## 4. 取組による成果や効果

●青年団に毎回多くの若い世代が集まり、活発に交流していることに、**地域の注目と期待**が高まっている。

●参加者のニーズに合わせて事業展開しており、ダンスが大好きになった子供たちは、**表現したい気持ち**が大きく成長した。就労支援事業所の利用者も公民館の講座に参加し、**地域の方とのふれあい**を楽しんだ。

●多様な若者の参加により、**世代を超えたつながり**が生まれ、**町のにぎわいや活性化**が図られた。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

昨年度より38の町内会の代表が構成員となったことにより、コミュニティの各部会が活発となり、役員、理事の**意識も変わってきた**。毎月開催している事務局会議で事業計画、報告を行い、青年団や地域**住民の意見を共有**し、事業の検証・改善を行っている。理事会や総会でも前向きな意見が出るようになり、現状や課題、振り返り、改善点等について議論している。事業毎の実行委員会、反省会への**参加者も増加**している。



地域づくり計画打合せ

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

①**住民参加型の互助的な**高齢者生活支援事業 ②**子どもの居場所・遊び場創出**事業 ③気仙沼市の公民館との**市域を越えた交流**事業の3つを今年度より始めると共に、コミュニティのスローガン「One for all All for one」のもと、**町の核**となる公民館から、**地域づくりの小さな一歩**をスタートさせたい。



とよま地区市民体育大会

## 地区住民が主役！学校と地域の連携から

横手市朝倉地区交流センター・横手市総合交流促進施設 あさくら館(秋田県)

### 公民館の沿革・年表

- ・昭和28年 横手公民館朝倉分館として開設
- ・昭和30年 横手市立朝倉公民館と改称
- ・昭和50年 新築して開館(朝倉町7-18地内)
- ・平成14年 旧朝倉小学校舎跡地(現在地)に新築
- ・平成17年 平成の大合併により8市町村が合併
- ・令和5年 朝倉地区交流センターと改称  
市立朝倉小学校運営協議会に参画し、地域とも連携した「地域学校協働活動」を開始
- ・令和6年 朝倉地区交流センターの地域運営組織を目指した活動を開始



あさくら館(外観)

### 左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

- 施設名称「横手市朝倉地区交流センター・横手市総合交流促進施設あさくら館」  
旧朝倉小学校舎に通学していたこの地区の住民の熱い想いから、その当時の学校を模倣した外観。かつての卒業生が懐かしさを感じて訪れることも。
- 地域学校協働活動として毎年実施している「合同避難所設営訓練」  
小学6年生を中心に、地域住民や地域で活動している団体、町内会の役員や学童保育の職員等、毎年顔ぶれは違うが、協力し合うことの大切さを感じられる時間。



合同避難所設営訓練

公民館情報		1. 公民館対象人口	5650人	4. 利用可能時間	9:00~22:00
		2. 建物設置年月日	平成14年8月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN(Wi-Fi等)
		3. 開館日数	359日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	128台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 市長部局 )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 128人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 6,513人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 795人 ( 秋まつり：作品展示、ステージ発表など )				合計 7,436人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人 )				合計 5人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 横手市社会教育委員会議 )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ( )				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 ( <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 ( ) ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( 雪冷房システムを導入した交流施設。軽運動可能なホール・和室・洋室が利用できる。 )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他				

### 横手市朝倉地区交流センター

OPEN 9:00~22:00

H P <https://www.city.yokote.lg.jp/shisetu/1005531/1005532/1003998.html>

TEL 0182-35-2138

SNS

## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

気候変動に伴う水害が秋田県内においても発生している。横手川沿いに立地している朝倉小学校と朝倉地区交流センター（旧公民館。以下、センター）は、市防災計画においても避難所として指定されている。幸い朝倉地区は近年災害の無い地域ではあるものの、避難者が来校（来館）した場合の対応について、教職員やセンター職員はもとより、周辺住民も認識（知識）が乏しい状態である。このような背景もあり、令和5年度、センター長が委員として参画している、朝倉小学校運営協議会において、「学校を核とした地域づくり」につながる事業の実施を目指し、「地域学校協働活動」として、学校と地域との合同避難所設営訓練実施が提案され、以降毎年、避難所設営訓練が行われている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### 【合同避難所設営訓練】

学校・センター・町内会単位で、年に1回は避難訓練を実施している。しかし、避難所に指定されている小学校やセンターにおいて、避難所設営時の対応が明確になっていないことから、三者が協力し、毎年6年生児童が参加し「学校への避難所設営訓練」を実施することにした。

「センターだより」で地区住民に訓練体験の参加を呼びかけたところ、町内会や婦人会の役員及び防災を担当する方、福祉協力員、学校運営協議会委員、学童保育の指導員、防災士等の参加があった。訓練は、横手市危機対策課が推奨する「ファーストミッションボックス」を活用した。児童がリーダーとなって段ボールベッドや簡易テント設置の指示を伝え、協力して小学校の体育館に避難所を設営した。参加児童からは「知らない人とも協力して取り組まないと大きな力にならないと感じた」という声が聞かれた。

訓練に先駆け、60年程前にこの地区で水害を実体験した住民の体験談を聞き、参加児童はもちろん地区住民も皆、他人事ではないのだと気を引き締めた。センターが学校と地域を巻き込んで訓練を実施することで、新たな気付きが多く、改めて防災意識を高めようという気運が高まった。

### 【あさくらを思いっきり語る会】

当地区でも少子高齢化に伴い、町内会の存続が問題化してきている中、若年世代に目を向け、「あさくらを思いっきり語る会」を定期的に開催している。その一つで、中学生と地区内三つの小・中学校のPTA会員で熟議を行った。テーマは「未来のこの地区について」である。「朝倉で田舎らしい体験を共有したい」という声で、正月の「餅つき体験会」開催が実現し、若い世代の家族を含め想定以上の地区住民がセンターに集まった。参加者の「こんな機会を待っていた」という感想に、今後の地区運営のヒントが得られた。



協力した避難所設営訓練



あさくらを思いっきり語る会での熟議

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

センターでは、地区住民を紡ぐ役目を大事に、来館者や地区住民はもちろん、児童生徒や教職員に対しても声をかけを日常的に行うとともに、地域の団体からの協力依頼や生涯学習に係る相談にも耳を傾けるよう心がけている。災害時の行政情報の提供は、地区住民と向き合うセンターの役割の一つである。職員自らの実体験を大切に、例えば段ボールベッドや簡易テント設営を一度職員同士で行ってから、実際に地区住民と体験・訓練することで、有益な情報提供となるよう心がけている。

また、周知に関するSNSの活用は有効だが、高齢者と若年層の家族が混在するこの地域の特性を踏まえ、既存のセンターだよりのほかに、どのような情報発信方法が受信されやすいのか、試行錯誤の真っ最中である。



## 4. 取組による成果や効果

地域ぐるみでの訓練実施を通して、センターに段ボールベッドや簡易テントなどの防災用品が備蓄されていることを知らない住民が多いことが分かった。既に一人暮らし高齢者の防災活動に取り組んでいる町内会はもちろん、この訓練に参加した婦人会会員からの声が、関心の薄かった町内会会員へ届けられ、防災訓練の実施が急遽計画されている。さらには、一つの町内だけでなく、広範囲の波及が期待される。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

参加者へのアンケートや聞き取り、地域の声を大切にして、継続開催のための方法を職員間で評価し、成果と課題を分析するとともに、「横手市社会教育委員会」において、センターの生涯学習関連事業について報告し、今後の活動に生かすための協議を行う。地域学校協働活動としては、朝倉小学校運営協議会において今後も継続して実施するための協議を行っている。他地区交流センターや関連施設・機関の防災情報に対するアンテナを高くし、情報を共有できる研修の場（定例情報交換会議）を設けている。

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

当地区では、行政と地区住民が協働して、地域コミュニティの維持・再生を図るために「地区交流センター地域運営組織」の構築を目指し、中学生から高齢者までを巻き込み、「こんな朝倉地区に住み続けたい」等のテーマでワークショップ（あさくらを思いっきり語る会等）を開催している。そこでは「地区住民が集う機会が欲しい」「様々な地区住民とのコミュニケーションが必要」等が話題に上がっている。また、若い世代の活躍も望まれ、地域の未来像について熱く語られている。

こうした声を土台にして、「地区住民が主役の地域運営組織」を構築し、学校運営協議会とも連携・協働を図り、センターが拠点となって、「魅力ある郷土」と「自慢できる地区」となるよう、老若男女地域住民の力を結集して行動に移していきたい。



世代を超えて餅つき体験

## 『これからも“学び” 続けよう』

## 川俣町中央公民館(福島県)



川俣町中央公民館



コスキン・エン・ハポン

文化財講座

## 公民館の沿革・年表

昭和56年6月 川俣町中央公民館供用開始  
 令和4年7月 耐震化工事完了(リニューアルオープン)  
 令和7年11月～ 音響設備更新工事着手(～3月予定)

## 左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

毎年10月第2週に日本最大級の中南米音楽祭“コスキン・エン・ハポン”が開催される。

イベントは3日間行われ、町内外から多くの人々が訪れ、交流人口の活性化につながりなど、町の一大行事となっている。  
 町民講座、女性講座、白寿大学、文化財講座、文化祭、ふれあい交流事業、男女共同参画カレッジ、少年講座等の公民館事業を中心に様々な事業を実施しており、多くの参加者により、社会教育や生涯学習の拠点として利用されている。

公民館情報		1. 公民館対象人口	10766人	4. 利用可能時間	9:00～21:00
		2. 建物設置年月日	昭和56年4月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	354日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	100台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	9,291人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	26,864人	合計 40,713人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	4,558人	( 小中学校・高校等 )		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任	4人	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任	3人	合計 11人
	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 人    職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人 )				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 町社会教育委員が役割を兼任 )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 地域防災・減災	<input checked="" type="checkbox"/> デジタル・ディバイドの解消	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 体験活動	
	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育の推進	<input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援	
	<input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動	<input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動	<input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり	<input type="checkbox"/> 子育て支援	
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	<input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し	
<input type="checkbox"/> その他 ( )					
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 ( )				
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( 町の中心部にあり、町民の憩いの場や生涯学習の拠点として利用されている )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学	( かわまた認定こども園、川俣小学校、山木屋小学校、川俣中学校、山木屋中学校、川俣高校、川俣町役場、羽山の森美術館、おしまふるさと交流館、おはなしポケット )
	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関	
	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

## 川俣町中央公民館

OPEN 9:00～21:00    H P <https://www.town.kawamata.lg.jp/>  
 TEL 024-565-2434    SNS

## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

昭和56年に開館してから、町の中心部にある公民館として、多くの町民に慕われており、様々な団体の活動拠点や社会教育の場として利用されている。令和4年に耐震化工事及びエレベーターの設置、図書室のリニューアル等を行い、利用者への更なる利便性向上を図っている。町の一大行事として行われている「コスキン・エン・ハボン」は令和6年度で第47回を数え、川俣町とアルゼンチン共和国コスキン市との姉妹都市協定締結（令和6年12月）等一層の盛り上がりを見せている。

川俣町でも少子高齢化が進んでおり、参加者が固定化されたり減少していたりする中で、公民館職員等が中心となり、子どもから高齢者まで幅広い学習の機会を確保しながら連携・協働していくことで、「川俣町ならではの」事業を展開していくことが求められている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

『**コスキン・エン・ハボン**』…毎年10月の第2土・日祝日に開催される日本最大級の中南米音楽（フォルクローレ）の祭典。アルゼンチン共和国コスキン市で開催されるコスキン・フェスティバルへは日本代表として送り出しており、他には無い唯一無二のイベントとして確立されている。期間中は町内外から多くの観客が訪れ、町中が異国情緒あふれる様相を醸し出している。ケーナ講座を受講した町民が小学校におけるケーナ教室の講師を務めるなど、指導者の養成にもつながっている。また、コスキン・エン・ハボンへ出演した子どもの社会参加も増え、特別養護老人ホームでのケーナ演奏の慰問、社会科見学時のケーナ演奏等、青少年健全育成についても着実にその成果を上げている。

『**白寿大学**』…白寿大学は、「いきいきと笑顔でふれあいまちづくり」をテーマに30年以上続いている60歳以上の町民を対象とした高齢者学級であり、登録者が約150名いる。防災・減災、健康など生活に直結する学習、ボランティア活動など、高齢者の主体的な学習と実践活動、奉仕活動を促すことによって、生きがいに満ちた人生をつくり出す能力や態度を養う講座である。

『**文化財講座**』…川俣町内にある縄文時代の遺跡「前田遺跡」（小綱木地区）では、貴重な遺物が数多く出土しており、注目を集めている遺跡である。国指定の史跡とするための調査が進められている。このような貴重な遺跡が町内にあることを広く知ってもらい、文化レベルの向上や国史跡指定に向けた機運の醸成等のため文化財講座を実施している。

『**地域学校協働事業**』…地域学校協働活動推進員を中心に、より一層地域と学校が連携した活動を推進している。主に町内小中学校の総合的な学習の時間を使って取り組みを進めており、町内の企業や地域ボランティア等の協力を得ながら「ふるさと川俣」への郷土愛の醸成と充実した学習環境の整備に取り組んでいる。「川俣シルク」や「伝統芸能」町内の企業見学、野菜づくり体験など、本町の特色を生かしながらも、現代の子どもたちに必要な知識や能力を身に付けてもらうため、多種多様な地域ボランティアの方々と協働した取り組みを進めている。



コスキン・エン・ハボン



地域ボランティア 野菜づくり

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

『**コスキン・エン・ハボン**』では、小学校でのケーナ教室の開講やケーナ配付などにより、フォルクローレの普及活動に力を入れている。ケーナの響くまちづくり実行委員会を組織しており、コスキン・エン・ハボンの開催に生かしている。また、「アミーゴ・デ・川俣」をはじめとした公民館を利用するフォルクローレ愛好家達の団体が数多く結成されており、様々な団体や関係者がそれぞれの役割を担う大きなイベントであるため、各種団体の連携・協力を促し、円滑に遂行できるよう取り組んでいる。

『**白寿大学**』…高齢者の積極的な学習と実践活動を促すとともに、地域づくりや奉仕活動を推進することを目的として、高齢者が知りたい・学びたいといった受講生の反応と要望を聴取することで学習ニーズを把握し、「見直そう！ごみリサイクル」でゴミの減容化、「脳が喜ぶ生活習慣を考えよう」で認知症予防等、生活に直結した内容を含んで実施している。また、町のハザードマップを活用し、避難シートを作成するといった防災・減災をテーマにした講座は、中央館での取り組みをもとに、類似した講座を地区館において開催するなど、町全体の防災意識の高まりへとつながっている。

『**文化財講座**』は、公民館を会場とし町民が気軽に参加できるよう工夫し、専門家を招致してよりレベルの高い講座となった。また、出土品の展示等も同時に公民館で行い、より多くの方へ文化財に触れてもらえる機会を創出した。



「アミーゴ・デ・川俣」をはじめとした公民館を利用するフォルクローレ愛好家達との連携・協力

## 4. 取組による成果や効果

・コスキン・エン・ハボンでは、他の町には無い町の特徴的な行事であり、町の重要な文化として広く知れ渡っている。町内でも小学生から社会人まで多くの方がフォルクローレを親しんでおり、文化活動・社会教育として学びを創出できる大きな役割を担っている。また、「ケーナ教室」をはじめとして、学校との連携・協働にも力を入れており、公民館の一般講座として「ケーナ講座」受講した地域住民が、小学校で実施する「ケーナ教室」の講師の一人になるなど、学校と地域が互いの学びを成立させながら事業を実施している。（小中高生を対象としたケーナ講座の受講生が1期生となり「アミーゴ・デ・川俣」が誕生。200人を超える教え子にはプロとして活躍するものもいる。）

・白寿大学においては実生活に直結する学び、文化財講座においては地域の魅力の再発見へとつながっている。また、地域学校協働事業では、学校教育における総合的な学習との連携・協働へとつながっている。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

公民館運営審議会では、公民館事業の検証や改善を図るために、町社会教育委員が運営審議会委員を兼任している。また、事業推進会議では中央公民館と地区公民館が集まり、事業内容の確認・共有を行っている。さらに、受講生等へのアンケート結果をもとに新たな講座の考案や内容の改善などを行っている。今後もPDCAサイクルを実施するとともに、各事業のアンケート結果や講座・事業等への参加者とのコミュニケーションにより、要望や課題等の把握に努めていく。

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

これまでの町民憩いの場としての川俣町中央公民館を大切にしながら「川俣町ならではの」特徴的な取り組みを続けていきたい。時代の変化に柔軟に対応する社会教育・生涯学習の拠点として地域住民が集い、つながりを大切にするために公民館を活用してもらえるよう、事業や企画・講座の実施に取り組んでいきたい。具体的な仕掛けとして、受講生等へのアンケート結果や町の方針をもとに、これまで実施してきた「女性講座」「町民講座」等をリニューアルし、「料理」「健康」「趣味」など様々なテーマを設定し、若年層をも巻き込んだ幅広い世代が参加できる講座とすることで、世代間交流へもつなげていく。また、コスキン・エン・ハボンとの関連として、町の施設である羽山の森美術館の四季フォトコンテストと連携していく。さらには、スペイン語講座の設定や、小中学校に加えて、高校でのケーナ教室も実施していくことで、人口減少や過疎化における拠点としての機能強化や地域の特徴を生かした多様な学習へとつなげていく。

春コスキン～交流人口の活性化～  
(町内外からの全12チームの出演者が踊りや演奏を披露する)

## 三世代でまちづくり

## 養蚕コミュニティセンター(茨城県)



文化祭作品展



射的コーナー



目隠し歩行体験



家族で消火訓練

## 公民館の沿革・年表

- ・昭和29年 隣接8ヶ村が合併し、下館市が誕生したため養蚕村役場跡地で旧養蚕公民館が開設
- ・昭和29年 養蚕婦人会発足
- ・昭和52年 健康大学の開設（高齢者の学び支援）
- ・昭和57年 養蚕公民館新規開設
- ・平成17年 1市3町の合併により筑西市誕生
- ・平成17年 合併に伴い養蚕婦人会が、筑西市地域女性団体連絡会「養蚕女性会」として発足
- ・平成21年 エコの会発足
- ・令和6年 公民館運営方法の見直しにより、自治会の協力を得て、地域集会施設の利用開始

## 左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

- 令和6年11月に開催した「養蚕地区文化祭」の様相  
毎年開催している文化祭の中で子供たちとその家族58名が参加した。社会福祉協議会や自治会、地域の消防団の協力を得て、視覚障害の疑似体験として目隠しをした歩行体験や消火訓練の実技講習会等を行った。子供たちも熱心な態度で参加していた。

公民館情報		1. 公民館対象人口	4,000人	4. 利用可能時間	9:00~22:00
		2. 建物設置年月日	昭和57年8月9日	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
		3. 開館日数	302日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	無し
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 250人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 5,413人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 人 <input type="checkbox"/> その他 人 ( )				<b>合計 5,663人</b>
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input type="checkbox"/> 非常勤 人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 200人 ( 職員のうち社会教育士の数 人   職員のうち社会教育主事有資格者の数 人 )				<b>合計 203人</b>
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input checked="" type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 筑西市コミュニティセンター運営委員会 )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 高齢者支援(給食サービス)、放課後児童見守り(週4回) )				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( 単独施設ではあるが、地域集会施設と連携し、地区外の利用者にも対応している。 )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 社会福祉協議会、自治会、消防団、エコの会、市民の会、文化祭実行委員会 )				

## 筑西市 養蚕コミュニティセンター

OPEN 8:30~17:00

H P

<https://www.city.chikusei.lg.jp/gyousei/soshiki-shisetsu/facilities/community-center/aruterio/page002119.html>

TEL 0296-25-1452

SNS

## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・養蚕地区は、もともと地域活動が活発な地区であり、子供会活動・高齢者クラブ活動、女性会等の地域活動が盛んな地域であったが、少子化や高齢化の進展により、地域活力の停滞が懸念されていた。
- ・このことから、コミュニティセンター（公民館）が中心となって、地区自治会やPTA・女性会・ボランティア団体と連携し、これら地域活動を継続すべく、地区文化祭の継承やリサイクル活動の推進、さらに地域住民の学習意欲の喚起と地域の賑わいの創出に努めている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### ●リサイクル推進事業

環境問題は、地域住民の生活環境と密接に関係しており、ゴミの無い美しい地域環境を守ることは、そこに住み続けたいと思える郷土愛に繋がる。

この地区は、特にリサイクル活動を通じて、資源の大切さを地域住民とともに考え、ゴミの再資源化に取り組むことで、地域環境の向上を目指している。この一環として、リサイクル感謝祭を実施し、市の関係者や住民を交え、リサイクルの大切さを考える機会の提供にも努めてきた。



リサイクル感謝祭

### ●地域の環境美化

花のある地域は、心を和ませるものである。この地区では、コミュニティセンター・高齢者クラブが中心となり、花の苗づくりや花壇整備事業を進め、花のある明るい地域づくりに取り組んでいる。

### ●地区文化祭の実施

地区文化祭などの多世代が交流する行事は、地域の連携や一体化に欠かせないものである。それを、次世代を担う子供たちへ脈々と伝えることで、住み続けたいと思う地域づくりを目指している。

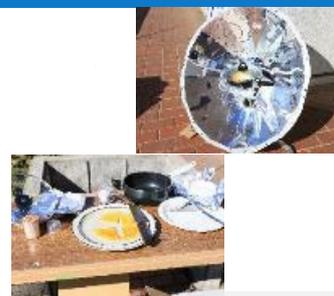


養蚕地区文化祭

文化祭では、子供から高齢者までの作品を一同に展示したり、バザーや子供たちに人気の射的コーナーや太陽エネルギーでの調理体験、家族で参加できる避難訓練や消火訓練なども取り入れたりして、年代を超えた交流の場となっている。

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

- ・活動の主体は地域団体であるが、コミュニティセンターが自治会やボランティアと連携し、事業の企画・立案、マンネリ化防止のための工夫やアイデアの提供、準備補助など幅広い支援を行っている。
- ・エコの会や文化祭実行委員会を組織し、地域住民を巻き込んだ事業の展開により地域住民自らが実践する地域イベントとなるよう毎年工夫を凝らして実施している。



ソーラークラッカーで調理体験

## 4. 取組による成果や効果

- ・養蚕地区は、小さい地区ではあるが、地域住民の連携意識は高まっており、リサイクル事業や文化祭には多くの住民が参加している。また、文化祭では、地域の幼稚園、小中学校とも連携し、子供たちの作品を展示することで、家族三代で楽しめるイベントとなっている。
- ・地域活動を継続的に支援しながら、活動の場の提供や利用調整、情報提供に努めてきたことは、多くの住民が生涯にわたり生き生きと活躍できるきっかけづくりになってきた。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・筑西市コミュニティセンター運営委員会の意見も踏まえ、地域住民の新たな視点やアイデアを基に地区内の連携を強化し、継続的な事業展開を図ることで、コミュニティセンターを核として地域の連帯感の醸成に努める必要がある。そのためにも地域住民の意見を尊重しながら今後も事業や講座の改善を図っていく。



エコの会活動報告会

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

- ・養蚕コミュニティセンター（公民館）は老朽化が著しく、住民の十分な活動の場の確保が難しくなっている。このため地区を構成する自治会とも連携し、自治会管理の施設も有効活用することで、地域活動団体の継続的な活動の支援に努めることとしている。



将来望ましい姿（資料参照）

なんでもchallenge! ~公民館の限界に挑戦~

古河市中央公民館(茨城県)



ZOOM講座



夏休み宿題講座 (お絵描き)

公民館の沿革・年表

- 昭和50年 (旧総和町) 中央公民館開設
- 平成17年 市町村合併 (古河市・総和町・三和町)  
古河市中央公民館に名称変更
- 令和2年 古河市公共施設適正配置基本計画策定により  
公民館施設の統廃合が決定
- 令和6年 予約システム構築・総和地域交流センター建設開始
- 令和7年 予約システム稼働開始・指定管理者募集  
総和地域交流センター竣工予定  
オンライン講座を初実施
- 令和8年 指定管理者移行予定

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- 公民館講座 (楽しく学ぶZOOM講座) の実施  
講座の内容は、初心者のためのZOOM講座の実施となっている。講師はNPO法人ネットワークサポート親楽が講師となり、デジタル・デバйд解消に寄与している。
- 夏休み宿題講座  
普段、公民館の利用がない小学生を対象に、夏休みの課題として提出されるポスターについて、学校教育教員でなく、イラストレーターを講師に招き、楽しんで課題を進めることができた。

公民館情報		1. 公民館対象人口	139404人	4. 利用可能時間	9:00~22:00
		2. 建物設置年月日	1975年1月20日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	360日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	60台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 指定管理者 ( ) その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1,761人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 47,374人 その他 人 ( )	健康診断・期日前選挙会場		講演会、展示会等 人	<b>合計 49,135人</b>
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 8人 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 3人 ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 )				<b>合計 11人</b>
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 委託金 自治組織等予算 寄附等 その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり なし その他 ( )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・ディバйдの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 地域学校協働活動 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育の推進 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 世代間交流活動 こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 ボランティア養成 地域資源を活用したまちづくり コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し その他 ( )				
13. 施設の特徴、魅力	複合施設 { 図書館 学校 生涯学習センター その他 ( 公民館図書室 ) 自由記述 ( )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	幼稚園・保育所 小中学校 高校 大学 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 博物館 青少年教育施設 その他				

古河市中央公民館

OPEN 9:00~22:00 H P <https://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/soshiki/syakaikyoku/index.html>  
 TEL 0280-92-4501 SNS 古河市公式LINEにて配信

## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

本館は中央公民館であるが、昭和50年建築であることから老朽化が著しく、また利用する世代も高齢者が多く、年代の偏りが顕著であった。

そのため、利用世代を平準化すべく、読み聞かせ親子講座や夏休み宿題講座の開設により、若い世代の利用促進を図るとともに、地域課題に対応するための各国料理教室を開設したり、現代的課題に対応するための高齢者のZOOM講座の開設したりと、新たなことに積極的にチャレンジしてきた。その結果、令和7年度の総和地域交流センターの開館に向けて確かな手ごたえを感じ、より利用者に愛される施設づくり取り組んでいるところである。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### 「高齢者へのアプローチ」

●NPO法人ネットワークサポート親楽の協力により、公民館講座として初のオンライン講座「やってよかったZOOM講座」を実施することができた。当初、オンライン講座は主な利用者である高齢者にはニーズがないのではないかと懸念があったが、予定人員以上の申込があった。



やってよかったZOOM講座

### 「若年層へのアプローチ」

●SNS(古河市公式LINEでの発信)の活用により自習室の利用者が大幅に増えた。  
●夏休み宿題講座(宿題コース・お絵かきコース)を実施し、普段利用のない小学生に呼び掛けた。

### 「親子世代へのアプローチ」

●公民館講座における親子講座を開設し、親子の利用を増加させた。  
●公民館図書室を利用した読み聞かせをボランティア団体に依頼し、親子の図書室利用を増加させた。



各国料理教室

### 「国際理解へのアプローチ」

●古河市は外国人数が県内4番目の5,987人(R7.4.1現在)と多く、地域住民とのかかわりなど、多文化共生が地域課題となっている。そのため各国料理教室の開設により身近な料理をもとに各国の特色を説明してもらい、国際理解を深めた。

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

### 「若年層の利用の促進」

●若年層の利用形態に即し、実施時期を夏休み期間中、課題提出日までの期間を設定した。また、夏休み宿題講座はオンラインでの申請のみの受付とした。

### 「親子世代の交流の促進」

●親子講座を実施した際に参加者が互いに連絡先の交換等を行い交流が生まれた

### 「シニア層への生涯学習の推進」

●講座の受講生が中心となり、自主講座が開設された。また自主講座についての市民からの照会・問い合わせもあり、さらなる活性化を進めている。



夏休み宿題講座

## 4. 取組による成果や効果

●利用者の「やってみたい」「〇〇できないか」等の意見に寄り添うことを大切に「利用者ファースト」の取り組みをしてきた。その結果、「自習室の時間の延長」では利用者が大幅に増えた。「オンライン講座」では予想以上の高齢者の参加がありデジタルデバイドの解消講座の一つとなった。「読み聞かせ講座」はボランティアの活性化と家庭教育支援講座になった。各国料理教室からはダイバシティ推進の一步を踏み出すことができた。今後も、キャッチフレーズのとおり、なんでもchallenge! 公民館の限界に挑戦していきたい。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●講座終了時に参加者からアンケートを取っているほか、講座中にも二次元コードから意見をもらい、運営の改善に生かしている。

●公民館利用者代表・学校教育関係者・学識経験者12名で構成する、公民館運営審議会を年2回開催するほか、教育委員会「教育委員会の事務に関する点検及び評価報告書」や社会教育委員会議での評価検証を実施し取組の改善を図っている。



自習室

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

新規オープンする総和地域交流センターを基盤に、愛称募集などで機運を高め、地域の住民がさまざまな人とかわる機会を提供していきたい。公民館と馴染みの少ない若年性へのアプローチについても、ドラムセットが設置してある音楽室等をもとに広げていきたい。またSNSを駆使した情報提供についても実施し、幅広い情報提供を実施していきたい。



総和地域交流センター



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 地域住民のつながりが希薄になり、地域の伝統行事や除草・清掃といった共同作業を行うことが年々難しくなっている。**地域活動の運営を一部の高齢者に頼っている状況を改善し地域を活性化するために、中学生の若い力と新しい視点は非常に有効である**と考え、中学校と連携し、地域住民と中学生が共に参加する一連の事業に取り組んでいる。
- 従来中学生になると勉強や部活動で忙しくなり、地域との関りが薄くなってしまいが、**地域の大人たちとの交流や協力を通じてコミュニケーション能力や協調性、郷土愛を育む**ことは、人格形成の上でも、子どもたちにとって非常に有意義であると考えている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【寺尾中学校生徒と地域の座談会（世代間交流活動）】

地域と関わりの少ない**中学生が、地域の一員として大人たちと親しく話し合う座談会**を開催。公民館長が司会を行い、生徒、地域住民、教員が積極的に意見を交換した。オブザーバーとして寺尾小学校の児童も参加し、地域をより良く、住みやすくするために自分たちに何ができるか**世代や立場を超えて**話し合った。

【わたしたちの寺尾～寺尾地域誌の作成（地域資源を活用したまちづくり）】

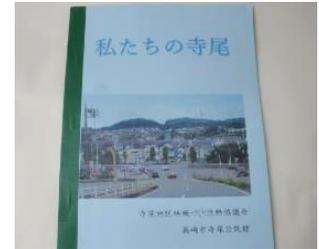
自分たちの地域について知り、**地域の課題や将来について考えてもらいたい**との思いから、公民館と地域住民による制作委員会が3年間かけて住民からの聞き取り調査などを行い、各町内を紹介する地域誌を作成。巻末に「寺尾中学校生徒と地域の座談会」の記録も加え、**地域の昔と今を深く知ってもらえる冊子**となった。

【寺尾中3年生と一緒に寺尾の歴史散策（伝統文化継承活動）】

卒業間近の**中学3年生と地域住民と一緒に地域を巡り、地域の伝統や歴史について学ぶ**講座。自らの住む地域について知らなかったことが多く、改めて興味を持った生徒が多かった。

【寺尾中学文化祭りハーサル発表会（地域学校協働活動）】

平日に行われる中学校の文化祭のリハーサルを日曜日に公民館で開催。平日開催の文化祭を見ることができない住民も観覧し、**地域住民と中学生の新たな接点**となっている。



わたしたちの寺尾～寺尾地域誌



寺尾中学文化祭りハーサル発表会

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

【寺尾中学校生徒と地域の座談会（世代間交流活動）】

**小・中学生も含め様々な世代が参加する場**となるよう調整し、議事録を地域誌に掲載することで、地域の将来を担う**子どもたちが地域をどのように見ているかを広く知ってもらえる**ようにした。

【寺尾中3年生と一緒に寺尾の歴史散策（伝統文化継承活動）】

中学校と連携し、授業の一環として全生徒が参加できる事業として開催している。

【寺尾中学文化祭りハーサル発表会（地域学校協働活動）】

地域住民に広く認知し観覧してもらえるよう、公民館だよりや口コミ等で積極的にPRを行った。いずれの事業も**子どもたちが地域と交流するきっかけ**となるように企画・運営している。



寺尾の歴史散策講義風景

## 4. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果（寺尾中学校生徒と地域の座談会）】

- 子どもたちに学校や家庭だけではなく**地域への愛着や地域住民のきずなも重要であると認識**してもらうことができた。
- 中学生が夏祭りの実行役や山車巡行に参加するなど、地域の一員として**主体的に地域に関わるきっかけ**となっている。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- **学校や地域の諸団体と相談、連携**することで多くのアイデアを交換でき、様々な新しい公民館事業の展開につながった。
- 事業を進める中で、**新たな交流やつながりが生まれ、学校、地域、公民館の関係性がさらに深まる**という好循環が生まれている。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 区長や地域の団体の代表者、小中学校長などで構成された公民館運営推進委員会を年2回開催し、事業計画、結果を報告し、意見や助言を得て、改善を行っている。
- 事業実施後にアンケートを取ることや、**講師や参加者との会話を積極的に行う**ことで意見を収集し、次回の事業に活かしている。



公民館運営推進委員会の様子

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

公民館が地域や学校と連携して事業を行うことにより、地域全体の活動となり、参加者の満足度も高くなるため、これからも**地域内の各種団体と連携を深めながら**事業を進めていきたい。また、座談会などをとおして得た子どもたちの意見を地域活動に反映させることで**若年層の地域への参画**を図りながら、地域からの意見を基に、**地域の新たなつながりや活動を育む事業**を積極的に展開していきたい。



寺尾公民館全景

こどもの体験とチャレンジを応援する地域拠点

前橋市上川淵公民館(群馬県)



テレビ局の仕事を学ぶ



親子収穫チャレンジ

公民館の沿革・年表

- ・昭和30年 前橋市公民館発足 上川淵支館発足
- ・昭和41年 (旧) 上川淵公民館落成
- ・昭和42年 優良公民館群馬県教育委員会表彰受賞
- ・昭和59年 現在地で(新) 上川淵公民館落成
- ・昭和63年 優良公民館群馬県教育委員会表彰受賞
- ・令和5年 わかば小学校、明桜中学校学校運営協議会に参画
- ・令和6年 優良公民館群馬県教育委員会表彰受賞

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

【小学生☆まなび体験】

- テレビ局の仕事を学ぶ

テレビ局から講師を迎え、実際にアナウンサーやディレクター、タイムキーパーなどを体験した。放送の裏で様々な役割を担う人がいることを知り、番組制作の大変さと面白さを感じることができた。

- 親子収穫チャレンジ

地区住民が組織している地域づくり協議会食育部会と連携することで、親子で気軽に参加できる収穫体験会を開催した。交流と食育を目的に世代間交流が図れたとともに、収穫の喜びを感じることができた。

公民館情報		1. 公民館対象人口	24,087人	4. 利用可能時間	9:00~22:00
		2. 建物設置年月日	昭和59年4月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	335日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	65台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	2,612人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	14,685人	合計 28,161人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	10,864人	( 公共団体利用 )		
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任	人	<input checked="" type="checkbox"/> 兼任	7人	合計 10人
	( 職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人 )		<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	3人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 地域防災・減災	<input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 体験活動	
	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	<input type="checkbox"/> 日本語教育の推進	<input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援	
	<input type="checkbox"/> 伝統文化継承活動	<input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動	<input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援	
	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成	<input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	<input type="checkbox"/> 社会人の学び直し	
	<input type="checkbox"/> その他	( )			
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 市民サービスセンター )			
	<input type="checkbox"/> 自由記述	( )			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学	
	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	<input checked="" type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関	
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他	
	( )				

前橋市上川淵公民館

OPEN 9:00~17:00

TEL 027-265-0455

H P <https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/shimin/kamikawa/gyomu/1/1/5017.html>



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 少子化や新型コロナ、地域の担い手不足等により、地域におけるこどもを含めた交流の機会が減少している。
- こどもにもスマホやタブレットが急速に普及し、簡単に情報が入手できる現代、**実際の体験や人との交流が大切**になっていると考えられる。
- 上記から、次代の担い手となるこどもが様々な人とふれあい、**好奇心を持って自ら取り組める「体験・チャレンジ活動」**の場を提供することを目的に講座を実施した。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【小学生☆まなび体験講座（体験活動）】夏休み期間を利用し、様々なテーマの**体験講座**を実施している。令和6年度は①真夏の夜のお話会 ②薬剤師の仕事を学ぶ ③涼しいところを探そう ④**テレビ局の仕事**を学ぶ（アナウンサー体験） ⑤公民館で遊ぼう（映画上映とバルーンアート）を実施した。

【親子収穫チャレンジ（世代間交流）】幼児～小学生の親子を対象に、地域団体が栽培した作物の収穫体験会を開催している。令和6年度は**ジャガイモとサツマイモの収穫**を行った。



真夏の夜のお話会

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

【小学生☆まなび体験（体験活動）】①読み手を公募し、**地域人材の発掘**に努めた。②地元の薬局と連携することで**本格的な調剤体験の機会**を提供できた。③地元講師の指導で身近な所から環境問題を考える機会とした。④テレビ朝日の出前講座に応募したところ開催が実現し、**プロのアナウンサーから指導を受ける**ことができた。より多くのこどもが体験できるよう近隣の公民館と協力し、3館合同の講座とした。

【親子収穫チャレンジ（世代間交流）】交流と食育を目的に地区住民が組織している地域づくり協議会食育部会と連携することで、**親子で気軽に参加できる収穫体験会**を開催することができた。



薬剤師の仕事を学ぶ

## 4. 取組による成果や効果

【各活動による成果・効果（小学生☆まなび体験）】●**地域人材、団体、企業等と連携**することで多様な体験プログラムの提供が可能となり、こどもがわくわくしながら積極的に取り組む様子が多く見られた。●仕事への興味、関心の幅が広がり、キャリア教育の機会になったと考える。●地域で活動したい人が潜在的にいることがわかった。

【各活動による成果・効果（親子収穫チャレンジ）】●**世代間交流**を図ることができた。地域の大人もこどもたちと接し、やりがいを感じていた。●農業や食育について興味を持つきっかけになったと考える。

【これまでの取組全体による成果・効果】●**公民館が主催する行事**に対してこどもの関心が高まり、**体験活動参加率の上昇**に寄与した。●**こどもと一緒に活動し活躍したいという地域の人たちが増えており**、世代間交流の橋渡しが出来た。

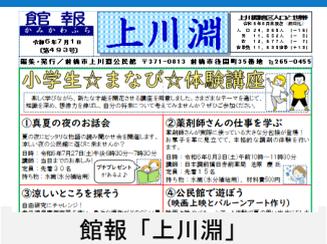
## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 関係団体の代表者や学識経験者等で組織する公民館運営推進委員会を年2回開催し、意見や指摘を公民館事業の改善に役立てている。
- 取り組みの検証と新たな企画の参考にするため、事業ごとに参加者アンケートを実施している。

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

● 講座を企画する際には「**今の時代に求められるテーマ設定**」、「**地域資源の活用**」、「**地域の人や団体等との連携**」を心がけている。今後も一層多様な観点から体験プログラムを提供できるよう情報収集に努め、こどもの豊かな成長を応援していきたい。

また、様々な世代に応じた講座の拡充にも努め、地域コミュニティの希薄化が問題となる現在、**公民館が学びと交流の場になる**ことを目指していきたい。



館報「上川淵」

# 公民館で広がる探究の輪 学びと芸術の共演

## 戸田市立新曽公民館(埼玉県)



ビッグバンドジャズオーケストラ演奏会



公民館まつり

### 公民館の沿革・年表

昭和52年 戸田市立新曽福祉センター内に複合施設として新曽公民館設置

平成31年 ITパソコン相談開始

令和元年 いとだスポット(フリーWi-Fi)設置

令和5年 一部貸室のWi-Fi利用開始

デジタルデバイドの解消を図るため、スマホ・パソコン相談と同時開催としてICT活用ミニ講座を開催

令和6年 ホールイベントをオンラインでも開催し、市内3館でホール事業が見られるように実施。

### 左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

●新曽公民館ホールでビッグバンドジャズオーケストラ演奏会を開催し、令和6年度は155名が来館して好評を得た。同年度にはオンライン配信を実施し、市内全公民館で演奏の臨場感を楽しめるようになった。ジャズ演奏会以外にも、ペーパーコンサートや落語公演など多様なイベントを提供している。

●新曽公民館では、毎年公民館まつりを開催し、地域の絆を深めるため学校とも連携して世代間交流を促進している。また、グランドピアノを備えたホールを活用し、音楽イベントや文化的催しを通じて地域の芸術文化活動の拠点として機能している。

公民館情報	1. 公民館対象人口	34,641人	4. 利用可能時間	9:00~21:30
	2. 建物設置年月日	昭和52年3月25日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN(Wi-Fi等)
	3. 開館日数	337日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	30台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )			
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1,074人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 40,892人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 225人 <input type="checkbox"/> その他 人 ( )			合計 42,191人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 4人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人 )			合計 6人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( )			
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ( )			
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 ( <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター ) <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 新曽福祉センター ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( 様々な催しを楽しめるホール有(330席)。 )			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ( 戸田市立新曽小学校、戸田市立新曽北小学校、戸田市立芦原小学校、戸田市立新曽中学校、埼玉県立戸田翔陽高校、青山学院大学、NPO法人戸田市ITボランティアの会、戸田市立図書館、市内事業所、戸田市商工会、戸田市役所 )			

### 戸田市新曽公民館

OPEN 8:30~21:30 H P

TEL 048-445-1811 SNS

<https://www.city.toda.saitama.jp/>

[https://www.facebook.com/todacity/?locale=ja\\_JP](https://www.facebook.com/todacity/?locale=ja_JP)



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 戸田市は、荒川を境に東京都に隣接しており、豊かな自然環境に恵まれた都市である。特筆すべき点として、彩湖・道満グリーンパークや戸田ポートコースなど、水辺と緑地が調和した潤いある景観を有している。さらに、30年連続で県内最年少の平均年齢を記録し、「県内一若いまち」としての地位を保持し続けている。
- 新曽公民館は、市内に存在する3つの公民館の中で唯一ホールを備えた施設となっている。土日祝日ではイベントの開催などによりホールの稼働率が高まっているが、平日においては比較的少ない傾向が見られる。
- 地域社会の発展と活性化には、地域の人材活用やつながりが非常に重要な役割をしており、公民館においても、地域のつながりの拠点として学校教育との連携、協働を一層強化していくことが求められている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### 【①ホール事業として、ビッグバンドジャズオーケストラ演奏会を実施】

新曽公民館は市内の公民館の中で唯一のホールを持ち、落語やオペラ、ピアノ演奏会、ビッグバンドジャズなど多彩な文化イベントを開催している。特にビッグバンドジャズオーケストラ演奏会は人気が高く、令和6年度には市内他公民館にオンライン配信を実施し、来館が難しい方々にも演奏の魅力を届けた。これにより、市内3つの公民館全てで多くの市民がジャズの演奏を楽しめるようになった。新曽公民館は、このような取り組みを通じて芸術文化の普及と文化的体験を提供している。

### 【②社会教育人材を活用した学校教育における連携・協働（子ども大学とだ）】

本公民館では、小学生向けの「子ども大学とだ」を実施しており、市内の図書館、県立美術館、大学と連携して実施した。この取り組みは、子どもたちに日常の学校生活では得難い貴重な経験を提供することを目的としている。専門家との対話や芸術作品との出会いを通じ、自らの興味や関心を発見する機会を創出している。地域の教育資源を活用し、子どもたちの探究心を刺激し、将来への可能性を広げる場を提供しており、次世代を担う子どもたちの成長と創造性豊かな人材育成に寄与するものである。今後も地域社会と連携し、教育環境の促進に努めていく。

### 【③公民館まつりの活性化(学校、NPO法人との綿密な連絡・協力の促進)】

公民館まつりは、サークル活動の成果発表と世代間交流、地域とのつながりを深める目的で開催しており、令和6年度は地域の小中学校や高校と連携し、生徒の絵画や写真作品を展示することで、学校と地域のつながりを促進した。



子ども大学とだ（青山学院大学講座）



公民館まつりでの  
小中学校作画展示

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

【①初となるオンライン演奏会の実施】ビッグバンドジャズオーケストラ演奏会において、市内の公民館全てで、視聴できるよう、オンラインでの演奏会を令和6年度に初めて実施した。新曽公民館に来館できない方でも演奏を体験できる仕組みづくりを実施した。

【②市内、県内公共施設、大学との連携】子ども大学とだは、市・県内の公共施設や青山学院大学と連携し、子どもたちに質の高い学習機会を提供した。この取り組みにより、探究的な学習への意欲を喚起し、教育環境の充実に貢献した。

【③学校・地域のつながりづくり】公民館まつりがより多世代交流の場となるよう、近隣の学校との連携を実施した。実際に作品を展示するだけでなく、公民館まつりの開催の手伝いも生徒と一緒にすることで、より多世代交流の熟成を図れた。



子ども大学とだ【近代美術館との連携】

## 4. 取組による成果や効果

- ①市内3公民館でのオンライン演奏会を実施し、市民が芸術文化活動に触れる機会を創出した。
- ②子ども大学を通じて、子どもたちの学習意欲と向上心を推進した。
- ③公民館まつりでは、近隣3校の児童生徒作品を展示し、新たに子ども向けスタンプラリーを実施した。これにより、小中学生や子育て世代の参加が増加し、来場者数が前年比14.8%増加した。学校や地域と連携したこれらの取組により、幅広い市民層に芸術文化の促進ができた。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

公民館での講座計画をはじめ、様々な事業に関しては、戸田市公民館運営審議会にて審議、報告を行っている。同審議会では、小中学校校長、町会長、PTA、商工会など地域の実情に詳しい方々が参画し、地域での学びの拠点となる公民館事業に対する意見交換を行い、事業の検証や改善に取り組んでいる。

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

より多くの市民の方に利用いただけるよう、様々な工夫を重ね、小中学校をはじめとする地域の諸機関との協力関係をさらに強化することで、より一層親しまれ、多くの方々にご利用いただける公民館を目指していく。また、ホールについて、落語公演や新たに映画上映会を実施するなど、ホールの多様な利活用を積極的に推進していく。公民館は地域のつながりと学びの拠点として、多様な人々が活躍できる地域づくりの一助となるべく、持続可能な学びの場を提供に努めていく。



落語でお笑い（落語公演）

## 高齢者も学び合い、交流で輝く地域づくり

## 深谷市岡部公民館(埼玉県)



シルバーゼミナール



終活セミナー

## 公民館の沿革・年表

- ・昭和54年 岡部公民館開設
- ・平成20年 大規模改修工事実施
- ・令和元年10月 岡部公民館、岡部総合支所、岡部図書館との複合施設として新たな場所に新設オープン

## 左図・写真の説明など（PRポイントなども可）

## ●終活セミナー 相続・遺言の様様

令和6年9月に30名が参加し終活セミナーを開催した。民法の改正ポイント、失敗しない相続と遺言について司法書士の講師の解説を熱心に聞いていた。セミナー終了後には、個別に参加者の疑問点について講師が対応した。令和7年度も継続して終活セミナーを開催する。

公民館情報		1. 公民館対象人口	17853人	4. 利用可能時間	9:00~22:00			
		2. 建物設置年月日	令和元年10月	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)			
		3. 開館日数	359日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	100台			
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )							
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	748人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	65,451人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等	408人	<b>合計</b> 76,357人	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	9,750人 ( )						
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任	4人	<input type="checkbox"/> 兼任	人	<input type="checkbox"/> 非常勤	人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者	人
	( 職員のうち社会教育士の数 1人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人 )						<b>合計</b> 4人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )							
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( )							
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災	<input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 体験活動				
	<input type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援	<input type="checkbox"/> 日本語教育の推進	<input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援				
	<input type="checkbox"/> 伝統文化継承活動	<input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動	<input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援				
	<input type="checkbox"/> ボランティア養成	<input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	<input type="checkbox"/> 社会人の学び直し				
	<input type="checkbox"/> その他	( )						
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 深谷市岡部総合支所 )						
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述	( 乳幼児が自由に遊べる児童室や、子どもから大人まで多くの方が利用しているフリースペースがある。 )						
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input type="checkbox"/> 高校	<input type="checkbox"/> 大学				
	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関				
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> その他				
	自治会連合会岡部支会、岡部地区社会福祉協議会 岡部地区青少年健全育成会、老人クラブ連合会岡部地区							

## 深谷市岡部公民館

OPEN 8:30~22:00 H P  
TEL 048-585-4974 SNS

## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

超高齢社会の到来、デジタル化の加速により、高齢者の介護予防・健康づくり、デジタルリテラシーの向上等が課題となっている。また、コロナ禍を経て、地域コミュニティの希薄化等も課題となっている。岡部地区においては、住民ニーズとして、高齢者のデジタルデバイドの解消、子育て世代の家庭教育の支援、子供の体験学習の機会、障害者の社会参加の促進、世代間による交流等が求められている。岡部公民館では、これら課題解決に向け、高齢者スマホ教室、子育て講座、体験学習プログラム、障害者作品展示、世代間交流イベントを企画・実施した。地域住民の協力を得て、学習活動機会の提供と持続可能なコミュニティの形成を目指した取り組みを推進した。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### 【シルバーゼミナール 健康づくり教室】

シルバーゼミナール健康づくり教室では、『食事と運動』をテーマに、おうちでできる健康づくりとして、60歳以上の地域住民を対象に開催した。

長年、岡部公民館で活動する団体の指導者を講師とし、食事と運動を通じた健康維持の方法、椅子を使った簡単なストレッチ・筋力トレーニングの実践等の講義を行った。

また、自宅で安全に取り組みやすい運動と、バランスの良い食事の知識を提供し、参加者が日常生活で健康づくりを実践できるようサポートすることができた。



シルバーゼミナール

### 【スマホ教室（LINE入門）】

スマホ教室（LINE入門）では、スマートフォンの初心者を対象に、ITサポーター深谷（市民活動団体）が講師を務め、スマートフォンの基本操作とLINEの使い方（友達登録、メッセージ送信、無料通話、スタンプ使用）の講義を行った。

深谷市の公式LINEアカウントを活用し、友達登録を通じて市政情報やイベント案内へ簡単にアクセスする方法を指導した。

自宅で実践可能な初心者向けの内容で、参加者がデジタル活用に慣れるようサポートすることができた。



スマホ教室

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

公民館は、地域課題解決の拠点として、以下の役割と運営の工夫を行い、住民ニーズに基づいた学習機会の提供、持続可能なコミュニティ形成の推進を図った。

- ①企画・調整役：デジタル教室、子育て講座、体験学習、障害者支援、世代間交流イベントを企画し、ニーズに応じたプログラムを作成
- ②地域連携のハブ：自治会、団体、専門家と連携し、講師やボランティアを確保
- ③アクセシビリティの向上：WEB参加オプションを導入し、若年層の参加を促進
- ④参加率の向上：「公民館だより」を活用し、多世代に情報を発信
- ⑤柔軟な運営：参加者の声を活かしたプログラムの調整、参加しやすい時間帯（夜間）での開催。



子どもスポーツ開放日 わなげ

## 4. 取組による成果や効果

健康づくり教室で高齢者の健康の増進、スマホ教室で高齢者のデジタルリテラシーの向上、子育て講座で家庭教育の不安の解消、体験学習で子供の創造力の育成、障害者作品展で障害者の社会参加の促進、世代間交流イベントで地域の絆の強化を実現した。

また、講座参加者の満足度・参加率の向上を図り、持続可能な地域社会の基盤を構築した。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ①開催毎にアンケート調査を実施し、参加者数、満足度、ニーズ等を分析した。
- ②自治会との共催イベントは、自治会長会議で改善策等を検討した。
- ③学校長、団体代表者、公民館利用者で構成する公民館運営審議会で、講座等の評価・検証を行い、次年度の計画に反映した。



公民館まつり

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

岡部公民館は、複合施設として、「多世代が交流し、学び合い、未来を創る場」をビジョンとし、地域住民の学習・文化活動、健康づくり等の拠点を目指す。

今後は、地域資源を活かしたイベントの開催、住民ニーズに対応したプログラムの強化、誰もが気軽に利用できる環境の整備など、地域住民の声を反映した企画・運営で、コミュニティの絆を深め、持続可能なまちづくりに貢献していきたい。



スポーツフェスタ岡部

# 地域と共に成長する富岡まちづくりセンター

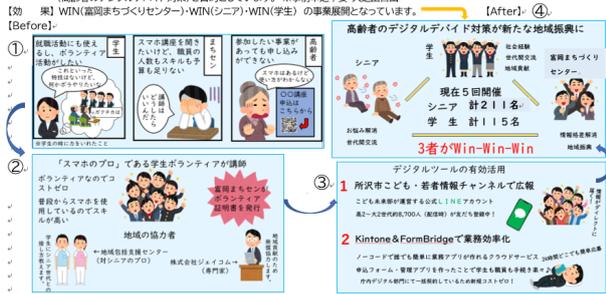
# 所沢市富岡まちづくりセンター(埼玉県)



全国都市改善改革実践事例発表会で最優秀賞を受賞

富岡シニアスマホ学園～3者がWIN-WIN-WIN～

【目的】 スマホを持っているけれども、上手く使用できないシニア層をターゲットに、学生ボランティアと一緒にスマホの悩みを解決すること(高齢者のデジタルデバイド対策)を目的としています。 ※事前申込不要・入退出自由



富岡シニアスマホ学園で3者がWIN-WIN-WIN

## 公民館の沿革・年表

- ・昭和31年 9自治会と富岡中学校が、中学校図書室の一室を借用し、富岡公民館を設置し、発足
- ・昭和45年 所沢市立富岡公民館 完成(旧所在地)
- ・昭和62年 所沢市立富岡公民館 新築移転(現所在地)  
※地区体育館・図書館分館を併設
- ・平成23年 富岡まちづくりセンターが発足(公民館、コミュニティ推進機能、窓口サービス機能を備える)
- ・令和7年 教育委員会から公民館を市長部局(市民部)に移管し、公民館を一元的に運営

## 左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

令和6年度にシニア向けのスマホ教室「富岡シニアスマホ学園」の取組が評価されて、所沢市代表として発表した「全国都市改善改革実践事例発表会」(全国14都市が参加)で、最優秀賞を受賞した。若い職員二人が全国大会で最優秀賞を受賞したことで大きく成長できた。公民館の役割は「人づくり・地域づくり」と言われるが、実は職員も大きく成長できる「場所」であり、企画・実行力がある職員に成長することで、ひいては、将来の所沢市をより良くするチカラになる。当事業の仕組みが「人づくり・地域づくり」に貢献している。

公民館情報		1. 公民館対象人口	22245人	4. 利用可能時間	8:30~21:30
		2. 建物設置年月日	昭和45年12月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	346日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	20台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 市長部局(市民部) )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 3,916人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 57,055人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 3,142人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 4,583人 ( 文化祭、体育祭、二十歳のつどい、三世代まつり等 )				合計 68,696人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 4人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人 )				合計 8人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 夏・冬季に自習室を開設。謎解きイベントを定期開催。性教育事業の開催。 )				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 ( <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 地区体育館、出張所機能(証明書の発行・納税等) ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( 1・2階のロビーを地域住民の憩いの場として開放。施設内にウォーキングコースを設置。 )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ひまわり保育園。所沢市立富岡小・中富小・西富小、富岡中。所沢北高校・秋草学園高校。早稲田大学・秋草短期大学。NPO法人みんなのひろば。所沢図書館富岡分館。				

### 所沢市富岡まちづくりセンター

OPEN 8:30~21:30 H P [https://www.city.tokorozawa.saitama.jp/shisetu/shi\\_shucchojo/tomiokasyuchojo.html](https://www.city.tokorozawa.saitama.jp/shisetu/shi_shucchojo/tomiokasyuchojo.html)  
 TEL 04-2942-3110 SNS <https://www.instagram.com/tokomachi11/?igsh=MWx0Mzd4bnd5a2VscAA%3D%3D#>



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

【**地域課題の把握**】令和6年2月に所沢市高齢者支援課が「介護予防・認知症予防普及啓発アンケート」の結果を公表し、富岡地区の回答結果として（70歳以上の1,171人から回答）、「スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかを持っているか」との設問に「約8割が持っている」と回答し、また「スマートフォン等の使い方教室や講座に興味があるか」との設問に「約4割が興味がある」と回答した。このことから、70歳以上の約8割がスマホ等を持っており、そのうちの約4割がスマホ教室があれば参加したいことが検証でき、実際生活に即するニーズを把握できた。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【**富岡シニアスマホ学園（デジタル・デバイドの解消、世代間交流活動、ボランティア養成、地域資源を活用したまちづくり）**】

この講座の特徴は、スマホ操作を教わるシニア、スマホ操作を教える学生ボランティア、そして富岡まちづくりセンターの3者にメリットのある「WIN-WIN-WIN」の仕組みを構築したことである。

具体的には、①シニアの方は学生ボランティアからスマホの使い方を教わることで、スマホの悩みが解消し、若い学生との世代間交流が図れるというメリットがある。②学生ボランティアには、社会経験・世代間交流・地域貢献することができるだけでなく、富岡まちづくりセンターが発行するボランティア証明書を得ることで、進学などに利用できるメリットがある。③富岡まちづくりセンターには、高齢者のデジタルデバイド（情報格差）の解消、地域振興につながる。こうして、3者ともに「WIN-WIN-WIN」の事業となった。

【**地域のプロを巻き込む**】

高齢者事業のプロである富岡地域包括支援センターの協力やスマホ操作やスマホ機種のプロである(株)ジェイコム埼玉・東日本所沢局の協力を得て開催したことで、地域の頼りになるプロを巻き込み、学生ボランティアだけでなくサポート体制が築かれた。



富岡シニアスマホ学園の正門



開催風景

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

【**デジタルツールの活用**】

学生ボランティアの募集や申込みにデジタルツールを使うことで、業務の効率化を図った。具体的には、「学生ボランティア募集」の周知を、市のこども未来部が運営する公式LINEアカウント「所沢市こども・若者情報チャンネル」で情報発信することで、高校2年生から大学2年生の年齢層の約8,700人にピンポイントでボランティア情報を提供することができた。また、学生からのボランティア申込みは、市が導入しているkintoneにより、24時間いつでもネット上での申込みができるようになった。さらに、申込みフォームから送られてくるデータをそのまま活用できるため、学生ボランティアの名簿作成・管理が効率的になった。

デジタルツールの有効活用！



デジタルツールの活用

## 4. 取組による成果や効果

【**WINシニア-WIN学生-WINまちセン-WIN所沢市の事業に**】当事業が評価されて、所沢市代表として出場した「全国都市改善改革実践事例発表会」で最優秀賞を受賞。若い職員二人が全国大会で最優秀賞を受賞したことで大きく成長できた。公民館の役割は「人づくり・地域づくり」と言われるが、実は職員も大きく成長できる「場所」であり、企画・実行力がある職員に成長することで、ひいては、将来の所沢市をより良くするチカラになる。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

公民館運営審議会で定期的に事業報告し（当事業を2回報告）、評価する仕組みがある。また運営に携わる富岡まちづくりセンターや学生ボランティア等で事業終了後に反省会を実施し、その日の反省点や改善案、運営に関すること等の意見を共有し、次回に生かすことで、回数を重ねるごとに事業がブラッシュアップされている。



事業終了後の反省会

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

公民館の役割は「人づくり・地域づくり」と言われるが、実は職員自身も大きく成長できる「場所」が公民館である。今後も職員自らが地域と共に成長し、地域に貢献できる公民館を目指していく。

『職員自らが地域と共に成長し、地域に貢献できる富岡まちづくりセンター』



学生ボランティアも成長している

## 誰もが「ともに学びあう」共生の地域を創る

## 国立市公民館(東京都)



しょうがいのある人・ない人がともに運営する「喫茶わいがや」



ボランティアと連携して行っている「生活のための日本語講座」

## 公民館の沿革・年表

- 昭和30年11月 国立町公民館開館(昭和42年 市制施行)  
 昭和50年 1月 若者たちのたまり場「コーヒーハウス」が始まる  
 昭和54年 4月 公民館改築  
 昭和55年 5月 障害者青年学級が始まる  
 (現在の「しょうがいしゃ青年教室」)  
 昭和56年12月 喫茶「わいがや」オープン  
 平成元年 5月 外国人のための日本語講座が始まる  
 (現在の「生活のための日本語講座」)  
 平成25年 4月 中高生のための学習支援「LABO☆くにスタ」開始  
 令和 6年 6月 公民館ホームページリニューアル  
 令和 7年11月 公民館開館70周年

## 左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

## 【喫茶わいがや】

公民館の1階ロビーにある喫茶スペース。公民館に集う若者の活動「コーヒーハウス」のスタッフや「しょうがいしゃ青年教室」に通うメンバーが、しょうがいの有無に関わらずともに運営している。居心地の良い店内や丁寧にハンドドリップしたコーヒーは、多くの市民から愛されている。

## 【生活のための日本語講座】

日本語を母語としない人を対象に、火・水・木曜の週3日、生活で必要となる基礎的な日本語を学ぶ講座を開催。レベルに合わせた5つのクラスがあり、昨年は128名が参加。市民のボランティアグループと連携して実施しており、ボランティアを養成する講座も毎年行っている。

公民館情報		1. 公民館対象人口	76,382人	4. 利用可能時間	9:00~22:00
		2. 建物設置年月日	昭和30年11月3日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	307日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	256台
7. 運営主体	市町村教育委員会	指定管理者 ( )	その他 ( )		
8. 来館者数	学級・講座 10,988人 その他 人 ( )	貸館、サークル活動 39,975人	講演会、展示会等 人	合計	50,963人
9. 職員数	専任 6人 ( 職員のうち社会教育士の数 1人 )	兼任 1人	非常勤 3人 ( 職員のうち社会教育主事有資格者の数 5人 )	ボランティア協力者	人
10. 予算	市区町村予算 委託金	自治組織等予算	寄附等	その他 ( )	
11. 公民館運営審議会	あり なし	その他 ( )			
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	地域防災・減災 地域学校協働活動 伝統文化継承活動 ボランティア養成 その他 ( 憲法・人権・平和・哲学・ジェンダー・表現創作・多文化共生・健康・社会教育学習会 )	デジタル・デバイドの解消 障害者の学び支援 世代間交流活動 地域資源を活用したまちづくり	家庭教育支援 日本語教育の推進 こども・若者の居場所づくり コミュニティ・スクール	体験活動 義務教育未修了者への支援 子育て支援 社会人の学び直し	
13. 施設の特徴、魅力	複合施設	図書館 その他 ( )	学校	生涯学習センター	
自由記述 ( 主催講座に力を入れており、年間50種類以上の様々なテーマの講座を実施している。 )					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	幼稚園・保育所 企業 図書館	小中学校 NPO 博物館	高校 各種団体 青少年教育施設	大学 行政機関 その他	
( 桐朋中学校・高等学校、都立第五商業高校、NHK学園高等学校、一橋大学、NPO法人東京学芸大こども未来研究所、一般社団法人真山舎、くにたち男女平等参画ステーション、くにたち中央図書館、くにたち郷土文化館、NPO法人フードバンクくにたち、国立市社会福祉協議会、国立市消防団女性団、国立市ボランティアセンター、国立市赤十字奉仕団 など )					

## 国立市公民館

OPEN 9:00~22:00

H P <https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/kurashi/shisetsu/3/11114.html>

TEL 042-572-5141

SNS Instagram@coffeehouse\_kunitachi



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

・国立市は「ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）」を市政運営の理念に掲げており、すべての人を社会的孤立や排除から守り、社会の一員として包み支え合うことを基本としたまちづくりを推進している。市における唯一の公民館である国立市公民館も同様に、ユネスコの「学習権宣言」等を踏まえ、社会参加に制約を受けている市民を含め、すべての人の学習権の保障を目指し、長い歴史の歩みのなかで現在の公民館の事業体系を構築してきた。

・国立市公民館には、公民館運営審議会などをはじめ、市民参加の多様な仕組みのもと、市民・職員協働の公民館運営が風土として根付いている。講座等の運営においても市民の主体的な参加を促進し、また多様な市民が学びあうことを公民館事業全体の共通テーマとしている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

以下、誰もが「ともに学びあう」共生の地域を創るというテーマに関係する事業を抜粋して紹介。

### 【しょうがいしゃ青年教室】

しょうがいのある若者となし若者がともに活動して、お互いに学びあう場を作ることを目的とした青年教育事業。スポーツ・クラフト・料理・リトミック・喫茶実習（喫茶わいがやとの連携）・YYW（みんなでやりたいことを自由に企画する）の6種類のコース別講座を毎月開催している。企画は毎回、みんなで話し合いながら決めている。そのほか年に数回クリスマス会や合宿など、共通イベントも開催。現在61名のしょうがいしゃメンバー、71名の若者スタッフが参加している。

### 【にほんごサロン】

「生活のための日本語講座」の参加者等を対象に、月1回程度、会話を楽しみながら交流する様々なプログラムを開催。日本文化やお子さんが通う日本の学校のことを知る機会となったり、外国人に料理を教えてもらったり、学んだ日本語で楽しく会話をしながら地域の方々との交流の機会となっている。また、外国人のための防災団体と連携し、街歩きをしながら避難所を巡るなどして、日本の災害や防災になじみのない外国人が手に入れにくい情報を共有している。

### 【中高生のための学習支援「LABO☆くにスタ」】

市内の中高生を対象に大学生のスタッフによる学習支援を月3回開催。文部科学省・東京都「地域未来塾」補助事業として実施。各回の参加者は中高生約20名、大学生約20名。市民や社会福祉法人から提供いただくお菓子やお弁当を食べながら交流する時間も設けており、学習支援だけではなく、安心して過ごせる「居場所」としても機能。

### 【地域防災講座「公民館de防災」】

公民館全室を使用して実施した令和6年度は、消防団や子ども食堂、ボランティアセンターなど計16団体の協力のもと、防災備蓄の配布や地震波実験、災害時のポリ袋調理体験など11種類のブースを展開した。老若男女問わず192名が参加、市民が防災を学び、日頃の備えについて考える機会となった。



しょうがいしゃ青年教室のスポーツチャンバラ大会。白熱した真剣勝負



にほんごサロン  
消しゴムハンコづくり

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

・これらの事業の発信力向上のため、毎月発行する「くにたち公民館だより」の紙面充実と併せて、近年は公民館ホームページをリニューアルし、市民運営のSNSと連動させ、特に若年層への遡及を強化してきた。

・どの講座でも、実施後とともに事業を運営する関係者やボランティア、職員で「ふり返り」を必ず行うようにしている。「ふり返り」では活動を見つめ直し、新たな気づきや発見、課題を出し合い、次回以降に向けた運営の工夫等を検討する。このサイクルを繰り返すことで、講座の質が高まるだけでなく、関係者・ボランティア自身の学びや成長にもつなげている。

・「LABO☆くにスタ」においては、スクールソーシャルワーカーと連携した情報発信を行い、学校や家庭での悩みを抱える子どもたちの参加につなげている。また、市内で活動する社会福祉士をアドバイザーに位置付け、子どもたちの福祉的な課題に対応する連携体制を構築している。



公民館de防災 スタンプラリー形式で館内を巡りながら、防災について学

## 4. 取組による成果や効果

・「しょうがいしゃ青年教室」料理講座に参加した大学生が、「私より断然料理が上手で、むしろ教わってしまった」と感想を述べたように、教える／教わるという関係が時に反転しながら、「ともに学びあう」という関係性が生まれている。また、これらの講座に参加する若者が高校生やしょうがいしゃも巻き込んで自主サークル「ラーメン部」を立ち上げるなど、高校生が大学生になって活動に戻り、講座の枠を超えて人をつなぐ持続的な世代の循環が広がってきている。

・地域防災講座では別々に活動している団体が一堂に会し、各団体の交流や情報交換が生まれ、市民同士がつながる場になっている。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

・学校教育・社会教育・家庭教育の関係者と学識経験者の計15名からなる公民館運営審議会では、毎月定例会を開催し、各種事業等について調査・審議を行っている。

・事業運営に携わる職員10名は、2週間に1回会議を実施し、講座のふり返りや企画に対する意見交換をしている。また、年に数回、職員研修を企画、事例研究や関連部署等との情報交換を行っている。



若者たちの自主的なサークル「ラーメン部」  
公民館の実習室でスープから作る

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

・国立市公民館は令和5年7月に「国立市公民館の職員に求められる専門性や基本的姿勢について」という指針を作成・公表した。引き続き、職員も市民と学びあいながら専門性を高める取組を推進する。

・今年度迎える70周年を機に、次世代の公民館活動の担い手育成に向けて、若者自身が多様な人たちと「ともに学びあう」場をつくっていく、「ユースワーク」の取組を推進したい。



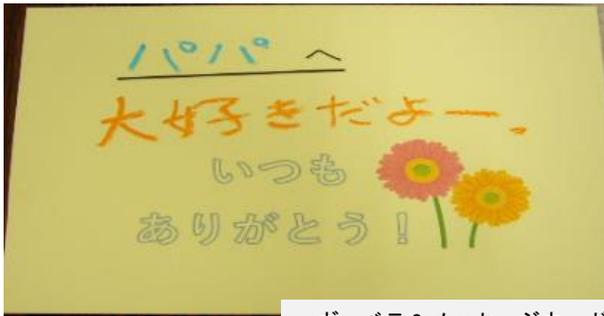
LABO☆くにスタの様子。公民館で一番大きいホールが満杯になるほどにぎわっている。

# 元氣も学びも大野から！

## 平塚市立大野公民館(神奈川県)



大野公民館 七夕飾りの様子



ガーベラ&メッセージカード

### 公民館の沿革・年表

- 昭和46年4月 開設
- 昭和53年 神奈川県公民館連絡協議会優良公民館受賞
- 平成27年3月 新築
- 第71回・第72回湘南ひらつか七夕まつり「七夕飾りコンクール」地区別の部 第二地区 一等
- 令和6年 神奈川県公民館連絡協議会優良公民館受賞

### 左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- 『地域で作る！七夕短冊、飾りつけ！』(写真上)  
七夕飾り製作を経て**団体や地域住民が一体になることの楽しさの再発見**することを目的としている。七夕飾りコンクール地区別の部で**2年連続で一等を受賞**している。
- 『ありがとうの気持ちを伝える！真土のガーベラ&メッセージカードをプレゼントしてみよう』(写真下)  
ガーベラを地域で生産していることを周知し、**地域の特徴を知り愛着を持つきっかけに繋げる**。花とメッセージカードを合わせて配布することで、**家族や友人間でのコミュニケーションを生むことも狙い**にしている。

公民館情報		1. 公民館対象人口	10199人	4. 利用可能時間	9:00-22:00
		2. 建物設置年月日	平成27年3月	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	357日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	12台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 553人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 25,013人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 人 <input type="checkbox"/> その他 人 ( )				合計 25,566人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 2人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 1人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 )				合計 5人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 公民館運営委員会 )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・ディバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input checked="" type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ( )				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( ・国道近くに位置しアクセスが容易・施設内各部屋は運動から会議まで幅広く使用できる )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 自治会連絡協議会、社会福祉協議会、青少年指導員、ごみ減量化推進委員会、体育振興会、PTA、学童、子ども会育成会 等 )				

### 平塚市大野公民館

OPEN 9:00~22:00    H P [https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/gakushu/page-c\\_01830.html](https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/gakushu/page-c_01830.html)  
 TEL 0463-55-0711    SNS



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 大野公民館は市の中心部・国道129号沿いの真土地区に位置する。小学校周辺は農地が広がり、市内唯一のガーベラ農家や、市の特産品であるバラを生産する農家が存在する。しかし、小学校と農家の交流がほとんどないため、児童や地域住民は地域農産物の魅力と特性を間近にいながら見落している状態であった。
- 旧公民館の時代から公民館・地域有志・団体とで七夕飾りを作成し公民館を彩っていたなど、地域と公民館が一丸となり目標達成を楽しみ風土が根付いていた。昨今はコロナ禍の影響もあって地域活動が下火になりつつあり、未来の真土のためにも活気と横のつながりを取り戻す必要があった。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### 【地域で作る！七夕短冊、飾りつけ！（伝統文化継承活動）】

平塚市の七夕まつり開催に合わせ、地域団体・有志・地域住民とで大野公民館外観を手作りの七夕飾りで装飾する事業。飾りは干支をモチーフにした大型の動物模型や、くす玉飾りなど趣向を凝らしている。七夕に欠かせない短冊は公民館の来館者や地域の小・中学校に作成協力してもらっている。努力の成果が実り、直近ではコンクール地区別の部で一等を2年連続で受賞した。

### 【ありがとうの気持ちを伝える！真土のガーベラ&メッセージカードをプレゼントしてみよう（地域資源を活用したまちづくり）】

地域のガーベラ産業と小学校・地域住民をマッチングするための事業。地域産業への理解と愛着を持ってもらうために、ガーベラと自由記載できるメッセージカードを合わせて頒布する。農家は存在を知ってもらえる、参加者は花が手に入りメッセージカードで家庭内のコミュニケーションにもなる、と両者にメリットが生まれる仕組みになるよう企画した。

### 【真土地区の地域団体について（地域学校協働活動）】

地域活動が下火になる昨今でも、公民館で精力的に活動している地域団体が複数ある。真土子育て支援「びよびよ」や真土地区社会福祉協議会では、役員は皆で集まりおしゃべりしながらイベントに向けて準備作業することを楽しみにしているため、無理なく地域活動を続けることができています。毎月多種多様なイベントを開催し、多い時には大ホールが人であふれかえるほどの盛況をみせる。

### 【大野公民館ふれあいまつり（地域学校協働活動）】

公民館で行われる最大規模の事業。公民館のサークル・地域団体・有志が芸能・展示・模擬店の各分野で、日ごろの活動成果を発表する場として2日間開催する。自主運営を基本とするため企画会議の段階からサークル等には参加してもらい役割を分担する。また、直近ではコミュニティスクールへの取り組みとして小学生の学習成果の発表の場としても機能した。



地域で生産されているガーベラ



大野公民館まつり ダンスサークル

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

- 七夕飾りの作成や公民館まつりなど、参加者全員で運営する事業では、参加者の発想や自主性を最大限に活かしたものにすため「手助けと予算は出しても口は出さない」ことを基本とした。作業に時間がとれない団体については、他の手の空いた団体が代行するなど、全体で難所をカバーすることで事業参加のハードルを下げた。
- ガーベラ事業は、当初父の日に関連した事業として児童向けの事業として企画をスタートしたが、小学校長との企画打ち合わせにより、児童だけでなく誰でも気軽に参加することができる事業に変えることができた。
- 地域団体主催の事業の場合、できる限り主催の希望に添えるよう企画実施について打ち合わせを行う。クリスマスイベントでは主事がパンダの着ぐるみで登場するなど、公民館自らも当日スタッフとして協力する積極性で地域に貢献している。



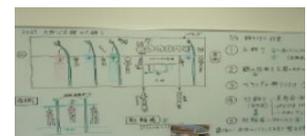
地域団体のイベントの様子

## 4. 取組による成果や効果

- 次回の七夕はどんなものを作ろうかとワクワクとした気持ちで盛り上がる参加者の様子から、未来の地域活動への可能性の広がりを実感できた。また、団体間同士でフォローする体制をとることで事業参加のハードルが下がり、年々協力団体数を増やすことにも成功した。
- ガーベラ事業では「こんなきれいな花が地元で育てられてるなんて知らなかった！」と驚きとともに笑顔が生まれた。協力してくれた生産者に伝えると「そんなに喜んでもらえるところも協力したかがあった。また協力したい。」と好循環を生んだ。
- 公民館まつりや地域団体の活動などで、公民館は成果発表の場としてだけではなく地域全体の喜びや楽しさを共有する場であることを担っていることを認識し、平素の社会教育の場としての強力な役割を果たしている。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 自治会ほか各種地域団体の代表者、小中学校長、PTAの代表者で構成された公民館運営委員会を年5回程度開催する。運営委員会でも七夕飾り製作について議題に取り上げ、地域に理解と協力を呼び掛けている。七夕まつり実行委員会が主催するコンクールにも参加し、外部からの評価を活動の糧の一部にしている。
- ガーベラ事業については地域の小学校長に事業内容について相談し、企画意図の共有をしながら運営を行っている。また、参加者へ事業について知った経緯や感想などを直接伺っている。



七夕飾り製作打ち合わせの記録

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

- 今までの公民館活動で、『集い・学び・結ぶ』ことについて実績を積み重ねることができてきた。これからはそれに加え、様々な理由で公民館に来ることができなかつた方を地域から取り残さないよう、事業への参加申込みをIT化するなど既存の方法をブラッシュアップしていく。公民館へ呼び集めるだけでなく、こちらから会いに赴く「場所にとらわれない公民館」として地域へ更なる歩み寄りをし、新たな可能性の芽を生み出したい。



完成した飾りを眺める参加者

故郷いせはら 文化・伝統を地域と守り抜く

伊勢原市立中央公民館(神奈川県)



第34回中央公民館まつり



市民のための大学教養講座

公民館の沿革・年表

- 平成 3年 伊勢原市立中央公民館 開館
- 同 年度 第1回中央公民館まつりの開催
- 平成 4年 家庭教育講演会、幼児家庭教育学級の開講
- 平成 8年 第1回いせはら市展の開催
- 平成17年 いせはら市民大学の開講
- 平成29年 市民のための大学教養講座の開講
- 令和 2年 Wi-Fi設備設置
- 令和 5年 未就学児が遊べる「プレイルーム」の改修工事
- 令和 6年 エレベーター更新工事

左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- 中央公民館まつりは、中央公民館の利用団体と伊勢原北地区の地域の方、小・中学校の協力のもと行っている。公民館利用団体が日ごろの学習活動の成果を発表するとともに、地域住民同士のふれあいや絆づくりの場となり、サークル活動や地域づくりの活性化に繋がっている。(写真上)
- 市民のための大学教養講座は、生涯学習のニーズが高まる中、東京農業大学の教授をお招きして、市民へ生涯学習する場を提供している。参加者は日常でも役に立つ知識や専門的な知識を身につけるだけでなく、意見交換を行い、住民同士のコミュニケーションの活性化にも繋がっている。(写真下)

<b>公民館情報</b>		1. 公民館対象人口	16674人	4. 利用可能時間	9:00~22:00
		2. 建物設置年月日	平成3年10月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	333日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	540台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 555人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 82,463人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 3,596人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 4,861人 ( 第34回中央公民館まつり )				<b>合計 91,475人</b>
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 4人 <input type="checkbox"/> 兼任 1人 <input type="checkbox"/> 非常勤 3人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 人    職員のうち社会教育主事有資格者の数 人 )				<b>合計 8人</b>
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ( )				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( 1階展示ホールは展示会や講演会等に使用され、多様なニーズに対応した部屋となっている )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ( 伊勢原小学校、中沢中学校、小中学校PTA、東京農業大学、伊勢原市教育委員会、伊勢原市社会教育課、伊勢原市立図書館、伊勢原北地区青少年健全育成協議会、伊勢原北地区体力づくり振興会、食生活改善推進団体、NPO法人地域福祉を考える会、私立向上高等学校、県立伊勢原高校、いせはら生涯学習ボランティア協会 )				

伊勢原市立中央公民館

OPEN 9:00~22:00    H P <https://www.city.isehara.kanagawa.jp/docs/2012021500030/>  
 TEL 0463-93-7500    SNS



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

伊勢原北地区は、市の中央に位置し、住宅や商業施設が立ち並び、約1万6千人が暮らす地域である。北西方向に目を向ければ伊勢原のシンボル「大山（おおやま）」がそびえ立つ。直近10年間の人口は横ばいで推移しているが、今後10年程度横ばいで推移した後、緩やかな減少に転じる見込みである。少子高齢化が進行し、生産年齢人口が減少していくに伴い、生涯学習のニーズが高まりが伺える。公民館活動をより良いものとしていくためには、生涯学習の場の提供やこども体験型事業の活性化が求められている。そのため「地域住民の活力向上」「学校では学べない・体験できない 楽しく学べる講座」をモットーに企画・運営を行っている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### 【こども体験型事業（体験活動）】

#### ・藍染体験

伊勢原産の藍を使用し、藍染めの魅力を広く伝えていくことを目的に実施した。一人一人がどのような模様の作品を作り上げるかを考え、創造豊かな発想を身につける講座となっている。

#### ・JAXA相模原キャンパス施設見学（写真上）

宇宙航空研究開発機構（JAXA）のご協力をいただき、JAXA相模原キャンパスの施設見学を実施した。小学校高学年のこどもを対象とし、こどもの好奇心や宇宙を身近に感じ、創造力を育む施設見学会であった。

### 【生涯学習・地域団体との協働事業（伝統文化継承・地域資源を活用したまちづくり）】

#### ・いせはら市民大学・楽しい講座（写真下）

いせはら生涯学習ボランティア協会との協働事業として、生涯学習と社会教育の振興・発展のために実施している。地域についての歴史や文化を知り、伝統文化の継承・地域特有のまちづくり形成への活動をしている。

### 【デジタルデバイドの解消（世代間交流活動）】

大学生講師によるスマートフォン教室を開催し、高齢者と若い世代の交流の場を創出している。また、デジタルデバイドの解消の役割も担っている。

### 【未就学児が遊べるスペースの設置（こどもの居場所づくり）】

未就学児が遊べるプレイルームの内装を一新し、子育て世代の親とともに気軽に遊べる空間を提供している。



JAXA相模原キャンパス施設見学の様子



第20期市民大学史跡散策の様子

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

・少子高齢化が進み生涯学習のニーズが高まる中、市民の学習するための活力を向上させるために、大学の教授や専門家をお招きして、日常でも使える専門的な知識を身につけ、その身につけた知識や技術を日常生活の一コマで活用できるような内容を実施している。例として、「珈琲のおいしい淹れ方講座」では、ハンドドリップの淹れ方を学び、日常の一コマを有意義に過ごしていただく機会を提供することをコンセプトに開催している。日々研究することにより「昨日より今日、今日より明日」という意識を持たせ、個々の能力の向上や学習意欲の向上に繋がっている。

・こども体験型事業では、学校では体験できない事業を考え実施している。特に伊勢原産の材料を使用した「藍染体験」や伊勢原産の野菜を使用した料理教室など、地元で生産されたものを身近に感じてもらえるようにした取組を行うようにしている。



珈琲講座の様子

## 4. 取組による成果や効果

・こども体験型事業では、こども達の創造力などを養うだけでなく、専門的な知識の情報交換や交友関係の拡大など親睦を深める一役を担っている。

・いせはら市民大学では、市の文化や歴史などを学ぶことにより地域についての興味を持っていただき、文化の継承に向けた取組の一助となっている。

・公民館まつりでは、お客さんの前での発表や自身の作品を展示することは、個々の能力の向上に繋がっている。また、公民館利用団体だけではなく、地域団体や各小・中学校、高校に協力を得て、イベントや模擬店を開催し、公民館と地域が連携して行うことができ、地域の活性化に繋がっている。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・社会教育関係者・学校教育関係者で構成される社会教育委員会議や公民館運営審議会を開催。
- ・伊勢原北地区自治会長、青少年指導員、スポーツ推進委員、学校関係者、公民館サークル代表者で構成される中央公民館活動推進協議会を年2回開催。
- ・公民館まつり開催前に実行委員会を開催し、実施内容等の調整を行い、終了後には反省会を実施し、次年度に向けての改善を図っている。



公民館まつりの様子

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

- ・こども体験型事業をさらに事業拡大し、様々な体験をさせ個性豊かな地域のこどもの育成に努めていきたい。
- ・生涯学習を推進させていくため企業とのコラボを実施し、より有益な情報を市民に向けて発信し、生涯学習の手助けとなれるような内容を実施していきたい。
- ・当市の文化を未来へ継承していくための取組を継続して行っていきたい。



2030SDGsカードゲームの様子

# おおじま&すごろ 地域をつなぐ公民館

## 三条市大島公民館(新潟県)



大学生によるバンド演奏



たいこ相撲ゲームで楽しむ

### 公民館の沿革・年表

昭和30年  
大島村が三条市に合併。役場は大島支所として開所し、同地区内に三条市公民館大島分館が設置された。  
昭和33年  
公民館条例改正により、大島公民館として設置された。  
昭和35年  
大島支所が大島連絡所となった。  
昭和45年  
大島連絡所の廃止。大島公民館は同所で継続して運営  
昭和52年3月  
現在地に移転新築(鉄筋2階建)

### 左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

●おおじま&すごろフェス  
公民館の新しいイベントとして令和5年から開催。令和6年は規模を拡大した。今後も開催の予定。  
多くの企業や学生、公共団体、地域住民が参加協力し、ステージイベント、ゲームコーナー・ワークショップ、PRや販売などのブースを数多く設置。1日楽しく学んで過ごせる場となっている。  
上：令和5年第1回開催の様様。2021年新設の三条市立大学のサークルによるバンド演奏。  
下：令和6年第2回開催の様様。地域の民生委員が昔の遊びブースを運営し、子どもたちと交流を楽しんだ。

公民館情報		1. 公民館対象人口	4164人	4. 利用可能時間	9:00~22:00
		2. 建物設置年月日	1977年3月30日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN(Wi-Fi等)
		3. 開館日数	359日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	200台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 三条市 市民部 生涯学習課 )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2,554人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3,070人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等 人 <input type="checkbox"/> その他 ( )				合計 5,624人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人 )				合計 3人
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ( )				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 ( <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( 果物栽培で有名な地域にあり、裏の畑では野菜作りの講座を実施している。 )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 大島地区自治会長協議会、大島地区各自治会、三条おおじま学園、大島中学校PTA、大島小学校PTA、須頃小学校PTA、三条市消防団大島方面隊大島分団、大島地区民生委員児童委員協議会、ベジフル三条大島、三条市立大学、三条看護・医療・歯科衛生専門学校、株式会社スタートライン、下須頃獅子舞保存会、他 )				

### 三条市大島公民館

OPEN 8:30~22:00 H P <https://www.city.sanjo.niigata.jp/soshiki/shimimbu/shogaigakushuoka/kouminkan/ojima/index.html>  
 TEL 0256-33-0097 SNS

## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

■コロナ禍以前は、地区自治会長協議会と協働で「大島地区親善スポーツカーニバル」というイベントを行っていたが、児童生徒数が減少し選手を確保するため、スポーツ少年団に市外の児童の参加を依頼するなど、大島地区、須頃地区の子どもたちのためのイベントという本来の目的が達成できなくなっていた。イベントの開催が可能となったコロナ禍の収束後は、地域の子どもたちが喜ぶようなイベントの形をどうするかという点が新たな課題となった。

■大島地区、須頃地区の近隣は、2021年に三条市立大学、三条看護・医療・歯科衛生専門学校が新設され交流人口が増えた。また基幹病院も近くに移転してくるなど、地域を取り巻く環境が大きく変化している。新たな交流人口、関係人口が増えている一方で、長く地域に住んでいる人々と、新しく地域に足を運ぶ人々との関わりが希薄であることが課題である。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

■多様な人々と交流しながら地域の子どもたちも楽しめるイベントの創出

公民館と地区自治会長協議会が協力し、イベントを立ち上げた。具体的な活動は、ステージイベント、ゲームコーナー・ワークショップ、PRや販売などのブースを数多く設置。地域のお店や様々な団体に声をかけ、地域住民と交流する場の提供にもなっている。

■令和5年 第1回「おおじま&すごろフェス」開催（会場：須頃小学校体育館ほか）

子どもたちが楽しみながら各ブースを回れるようスタンプラリーを取り入れた。地域住民が親子で訪れ各ブースを回っていた。

また、ステージイベントには、地域芸能、学生バンド、公民館サークルなど多様な発表があり、家族連れだけでなく小中学生、大学生、高齢者が友人同士で連れだって来場し、異世代が集まるイベントになった。また、ステージイベントの司会は中学生が務めた。

■令和6年 第2回「おおじま&すごろフェス」開催（会場：大島小学校体育館ほか）

イベント運営にも子どもたちが参加できるよう工夫した。事前広報も兼ねて、ステージイベントは公募出演とした。

PRブースには、大島地区民生委員児童委員協議会、健康づくり課、地域包括センター東、三条看護・医療・歯科衛生専門学校3学科、三条市立大学の町おこしサークル「雛燕」が初参加した。咀嚼テスト・フレイルテストやeスポーツ体験など、地域住民が健康増進やIT技術の最新情報に触れる機会を設けることができた。



スタンプラリーに参加して回る親子



公募による児童のドラム演奏（R6）

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

■公民館は主にコーディネーターとしての役割を心がけ、地域住民による地域のためのイベントになるよう大島・須頃地域に関わりのある多方面の企業、公共団体、学校、サークルに働きかけた。

■イベント企画テーマを「大島と須頃のいいもの再発見」にし、「地域」にこだわって内容を考えた。イベントという場を作り、大島・須頃地域との交流やアピール機会を欲している団体やお店などに声掛けし、イベントへの参加協力を求めた。

■当日運営は公民館協力員や自治会が中心となり、駐車場誘導やブース運営の補助や支援を担当してもらい、日頃、公民館を利用していない人が動きやすいように工夫した。

■イベントを公民館の年間計画に位置づけ、公民館活動サークルの発表の場にした。



フラダンスサークルのステージ

## 4. 取組による成果や効果

■公民館は「大島と須頃のいいもの再発見」というテーマを設定し地域のよさに着目したイベントを通して、新しく地域に関わる人々に声掛けをしたことにより、地域住民と様々な団体や人々をつなぐ役割を果たすことができた。

■地域の子どもたちが地域のことを学びながら、若者、高齢者など様々な世代の人とも交流し、楽しめるイベントになってきている。

■地域にある市立大学や専門学校の参加が得られたことで、日頃、公民館に足を運ぶ機会がなかった若い世代の来場が促進された。大学側にも地域との交流機会を増やしたい意向があり、今後も参加協力を継続してもらえることになっている。

■地域にある特別養護老人ホームの利用者がステージ見学に来場し、消防団員が会場への出入りをサポートした。民生委員児童委員協議会や消防団は地域で不可欠な役割を果たしているが、普段の活動ではなかなか地域住民と触れ合う場がなかったことから、活動を知ってもらう良い機会になった。

■参加者延べ人数は、R5・500人、R6・525人 参加内容（団体）件数は、R5・26件、R6・34件

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

当日参加のみの来場者、スタッフとして参加した人、それぞれに事後アンケートを実施している。また、運営の中心となっている自治会長協議会や公民館協力員が、イベント内容や運営を振り返り協議する機会を設けている。アンケート結果と併せて検討し、改善点を次年度の企画に活かしている。また、小中学校の学校運営協議会などでもイベントへの意見をもらい、子どもにとってよりよいものにする。



大学生サークル出展ブース

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

地域に根ざした公民館として、地域の特色を活かしたイベントを実施したことで、関係が希薄だった長く地域に住む住民と新たにこの地域に関わることになった人々をつなぐことができた。今後も交流をつなぐ役割を果たしていきたいと考えている。そのためには、日頃から地域の方々の声をよく聞き、ニーズを捉えて事業を計画していく。令和7年度は、公民館協力員の提案で小中学校の校歌を歌う企画や、地元の農産物などが当たるくじ引き大会を計画している。



民生委員児童委員協議会ブース